



ARIS RISK & COMPLIANCE MANAGER

モデル作成の規則

バージョン 10.0 - SERVICE RELEASE 9

2019 年 7 月

This document applies to ARIS Risk & Compliance Manager Version 10.0 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2019 [Software AG](#), Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <http://softwareag.com/licenses>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices, license terms, additional rights or restrictions, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". For certain specific third-party license restrictions, please refer to section E of the Legal Notices available under "License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products". These documents are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

目次

1	テキストの表記規則	1
2	はじめに	2
2.1	本マニュアルの内容	2
2.1.1	目的および範囲	2
3	一般表記規則	3
3.1	ユーザーとユーザー グループの作成	3
3.1.1	役割と要員の割り当て	6
3.2	企業の階層の文書化	7
3.2.1	アプリケーション システム タイプ階層	8
3.2.1.1	アプリケーション システム タイプ (ARIS) とアプリケーション システム タイプの階層 (ARCM) の割り当て	9
3.2.2	組織の階層	10
3.2.2.1	組織ユニット (ARIS) と組織階層要素 (ARCM) の割り当て	11
3.2.3	プロセス階層	12
3.2.3.1	レベル 1 でのプロセス モデリング	13
3.2.3.1.1	ファンクション (ARIS) とプロセス階層要素 (ARCM) の割り当て	14
3.2.3.2	レベル 2 でのプロセスのモデル化 - 付加価値連鎖図 (VACD)	15
3.2.3.3	レベル 3 でのプロセス モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)	16
3.2.4	規定階層	17
3.2.4.1	[用語] オブジェクトの属性割り当て	18
3.2.5	リスク階層	19
3.2.5.1	リスク カテゴリ (ARIS) とリスク階層 (ARCM) の割り当て	20
3.2.6	検査者の階層	21
3.2.6.1	組織ユニット (ARIS) と検査者階層要素 (ARCM) の割り当て	22
4	監査管理表記規則	23
4.1	監査テンプレートの生成	23
4.1.1	監査の概要	23
4.1.1.1	モデルのプロパティ	23
4.1.1.2	オブジェクト、関係、および属性	23
4.1.1.2.1	タスク (ARIS) と監査テンプレート (ARCM) の割り当て	24
4.1.2	監査手順の概要	27
4.1.2.1	モデルのプロパティ	27
4.1.2.2	オブジェクト、関係、および属性	27
4.1.2.2.1	タスク (ARIS) と監査手順テンプレート (ARCM) の割り当て	28
4.1.3	範囲の定義	30
5	統制管理表記規則	32
5.1	統制実行タスクとその関係の作成	32
5.1.1	オブジェクトと関係	32
5.1.2	統制実行タスクの属性	33

6	統制ベースの検査管理の表記規則	37
6.1	リスクおよびプロセスの識別	37
6.1.1	レベル 3 のプロセスおよび統制モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)	37
6.2	統制およびリスクの分析と、検査の展開	39
6.2.1	統制	41
6.2.2	リスク	43
6.2.3	検査の定義	46
6.3	一般モデル作成規則	48
6.3.1	自動の統制検査	48
7	オペレーショナル リスク管理の表記規則	49
7.1	リスクおよびプロセスの識別	49
7.1.1	レベル 3 でのプロセスおよびリスク モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)	49
7.2	リスクの分析とリスク評価の構造	50
7.2.1	リスク	52
8	方針管理表記規則	57
8.1	方針の定義の作成	57
8.1.1	オブジェクトと関係	57
8.1.2	属性	59
8.1.3	プロセス モデル	64
8.1.3.1	オブジェクト、関係、および属性	64
8.1.4	ビジネス ルール アーキテクチャ図	65
9	規制変更管理表記規則	66
9.1	規定階層を作成して、規制変更管理データを指定	66
9.2	役割と用語の関係	69
10	リスク ベースの検査管理の表記規則	70
10.1	リスクおよびプロセスの識別	70
10.1.1	レベル 3 でのプロセスおよびリスク モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)	70
10.2	リスクの分析、および統制と検査の展開	72
10.2.1	リスク	74
10.2.2	統制	77
10.2.3	検査の定義	79
10.3	一般モデル作成規則	81
10.3.1	自動の統制検査	81
11	サインオフ管理の表記規則	82
11.1	プロセス階層を使用するサインオフ	82
11.2	規定階層を使用するサインオフ	83
11.3	検査者階層を使用するサインオフ	84
11.4	組織階層を使用するサインオフ	85
12	調査管理表記規則	86
12.1	質問票テンプレートの作成	86
12.1.1	回答オプションと質問/セクション間の依存関係の作成	89
12.1.1.1	オブジェクトと関係	90
12.1.1.2	依存する質問/セクションのアクティブ化	91

12.1.1.2.1	回答オプションで常に同じ質問/セクションをアクティブ化する	91
12.1.1.2.2	回答オプションで、特定の質問のコンテキストで異なる質問/セクションをアクティブ化する	92
12.1.1.3	ARIS Risk & Compliance Manager での依存する質問/セクションの位置	94
12.1.1.3.1	有効化する質問の直下の依存する質問/セクション	94
12.1.1.3.2	定義した位置の依存する質問/セクション	95
12.1.2	質問票テンプレート オブジェクト	96
12.1.3	セクション オブジェクト	98
12.1.4	質問オブジェクト	99
12.1.5	オプション セット オブジェクト	102
12.1.6	回答オプション オブジェクト	102
12.1.7	質問タイプ	103
12.1.8	評価者による評価	103
12.2	質問票テンプレート割り当て	104
12.2.1	質問票テンプレート割り当てモデル内の質問票テンプレートのオブジェクト関係	106
12.2.2	調査タスク	108
12.2.3	質問票テンプレート割り当てモデル内の調査タスクのオブジェクト関係	110
13	法的情報	115
13.1	文書範囲	115
13.2	データ保護	115
13.3	免責事項	115

1 テキストの表記規則

各項目の表記規則について説明します。

- メニューアイテムやダイアログ ボックスなどの UI 用語は角括弧 ([]) で表記されます。
- ユーザーが入力する内容は、<太字で山括弧内> で表示されます。
- 複数行から成る長いディレクトリ パスなどの、1 行から成る例のテキストは文字 ↵ により行の最後で分割されます。
- ファイルからの抽出テキストは、次のフォントで表示されます。
This paragraph contains a file extract.
- 警告の背景は色付きです。

警告

この段落には警告が記載されます。

2 はじめに

ARIS のモデルを用いて業務プロセスと統制やリスクなどの関連オブジェクトを記録すると、さまざまな利点（一貫性、複雑さの軽減、再利用性、評価の可能性、整合性など）があります。これらのモデルとオブジェクトは ARIS Risk & Compliance Manager のワークフローで使用されます。ただしこれは、ARIS Architect でのモデリングのメソッドおよび機能の規則と表記規則が順守されている場合のみ実行できます。ARIS Architect において関連するオブジェクトを適切に保守するために、本マニュアルの表記規則を順守することをお勧めします。これらのルールに従った場合にのみ、すべてのモデル化されたデータは ARIS Risk & Compliance Manager と同期して、再利用することができます。

2.1 本マニュアルの内容

以下の各セクションでは、説明ビュー、モデル タイプ、オブジェクト タイプ、関係タイプと接続線タイプ、および属性の使用に関する標準を説明します。

2.1.1 目的および範囲

目的:モデリング ガイドラインの仕様設計

本マニュアルに含まれないもの:ユーザーの文書

3 一般表記規則

3.1 ユーザーとユーザー グループの作成

ユーザーおよびユーザー グループは、[要員] (OT_PERS) および [役割] (OT_PERS_TYPE) のオブジェクトを使用して ARIS Architect の組織図でモデル化されます。

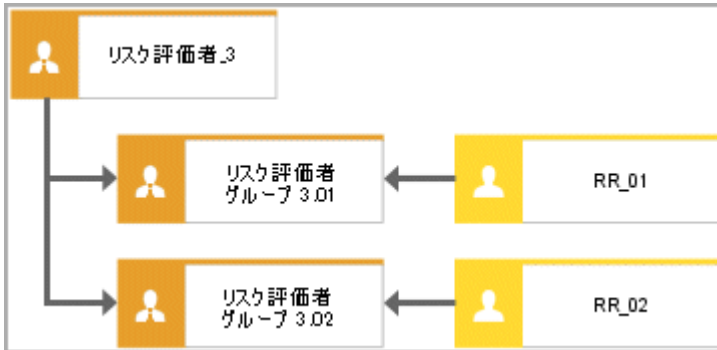


図 1: 例: ユーザーおよびユーザー グループの構造

この例の上位役割 [リスク評価者_3] によって、ARIS Risk & Compliance Manager では下位役割が果たす役割が指定されます。これらの役割は、[汎化結果である] 接続線を使用して接続されます。[リスク評価者グループ 3.01] は [リスク評価者_3] の汎化の結果です。作成されるグループの役割とレベルは上位役割名により定義されます (<役割>_<レベル>)。この例では、[リスク評価者_3] (役割 = リスク評価者、レベル = 3) です。上位役割 (この例では、[リスク評価者_3]) には、ARIS Risk & Compliance Manager ではユーザー グループは作成されません。

以下がさまざまな役割レベルに適用されます:

- 役割レベル 1: 環境汎用
役割に基づいてユーザー グループに割り当てられた権限は、ユーザー グループに割り当てられたすべての環境に適用されます。
- 役割レベル 2: 環境固有
役割に基づいてユーザー グループに割り当てられた権限は、ユーザー グループが作成された環境に適用されます。
- 役割レベル 3: オブジェクト固有
役割に基づいてユーザー グループに割り当てられた権限は、ユーザー グループが作成された現在の環境にある関連するオブジェクトに適用されます。

上記の例では、[リスク評価者グループ 3.01] ユーザー グループは、役割が [リスク評価者] でレベルが「3」の権限 (オブジェクト固有) を使用して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されます。さらに、ユーザー ID が「RR_01」のユーザーが生成されます。

役割名 (ARCM) と役割 (ARIS) の対応一覧

次の割り当ては、ARIS Risk & Compliance Manager でのユーザー グループと ARIS Architect で使用される名前に適用されます。

役割 (ARCM)	役割 (ARIS)	役割レベル
roles.auditauditor	監査監査者	レベル 1、2、および 3
roles.auditmanager	監査担当者	レベル 1 および 2
roles.auditowner	監査所有者	レベル 3 のみ
roles.auditreviewer	監査評価者	レベル 3 のみ
roles.auditstepowner	監査手順所有者	レベル 3 のみ
roles.deficiencyauditor.l1	不備監査人 (L1)	レベル 1 および 2
roles.deficiencyauditor.l2	不備監査人 (L2)	レベル 1 および 2
roles.deficiencyauditor.l3	不備監査人 (L3)	レベル 1 および 2
roles.deficiencymanager.l1	不備担当者 (L1)	レベル 1、2、および 3
roles.deficiencymanager.l2	不備担当者 (L2)	レベル 1、2、および 3
roles.deficiencymanager.l3	不備担当者 (L3)	レベル 1、2、および 3
roles.groupusermanager	ユーザー/ユーザー グループ管理者	レベル 1 および 2
roles.hierarchymanager	階層担当者	レベル 1 および 2
roles.hierarchyauditor	階層監査人	レベル 1 および 2
roles.hierarchyowner	階層所有者	レベル 3 のみ
roles.policyauditor	方針監査人	レベル 1、2、および 3
roles.policymanager	方針管理者	レベル 1 および 2
roles.policyowner	方針所有者	レベル 3 のみ
roles.policyapprover	方針承認者	レベル 3 のみ
roles.policyaddressee	方針受取人	レベル 3 のみ
roles.riskauditor	リスク監査人	レベル 1 および 2
roles.riskmanager	リスク担当者	レベル 1、2、および 3
roles.riskowner	リスク所有者	レベル 3 のみ
roles.riskreviewer	リスク評価者	レベル 3 のみ
roles.controlauditor	統制監査人	1、2 および 3
roles.controlexecutionowner	統制実行所有者	3 のみ
roles.controlmanager	統制担当者	レベル 1、2、および 3
roles.signoffowner	サインオフ所有者	レベル 3 のみ
roles.signoffmanager	サインオフ担当者	レベル 2 および 3

役割 (ARCM)	役割 (ARIS)	役割レベル
roles.signoffreviewer	サインオフ評価者	レベル 3 のみ
roles.surveyauditor	調査監査人	レベル 1 および 2
roles.surveymanager	調査担当者	レベル 1、2、および 3
roles.surveyreviewer	調査評価者	レベル 3 のみ
roles.questionnaireowner	調査回答者	レベル 3 のみ
roles.testauditor	検査監査人	レベル 1、2、および 3
roles.testauditorexternal	検査監査人 (外部)	レベル 1 および 2
roles.testester	検査者	レベル 3 のみ
roles.testmanager	検査担当者	レベル 1、2、および 3
roles.testreviewer	検査評価者	レベル 3 のみ
roles.issueauditor	課題監査人	レベル 1 および 2
roles.issuemanager	課題担当者	レベル 1 および 2
roles.incidentauditor	インシデント監査人	レベル 1 および 2
roles.incidentmanager	インシデント担当者	レベル 1 および 2
roles.incidentowner	インシデント所有者	レベル 3 のみ
roles.incidentreviewer	インシデント評価者	レベル 3 のみ
roles.lossauditor	損失監査人	レベル 1 および 2
roles.lossmanager	損失担当者	レベル 1 および 2
roles.lossowner	損失所有者	レベル 3 のみ
roles.lossreviewer	損失評価者	レベル 3 のみ
roles.lossowner	損失所有者	レベル 3 のみ

3.1.1 役割と要員の割り当て

役割 (ARIS) とユーザー グループ (ARCM) の割り当て

次の割り当てを [役割 (ユーザー グループ)] オブジェクトに適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	ユーザー グループ名は最大 250 文字に制限されています。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
役割	-	role	○	役割と役割レベルの値は、上記のとおり指定されます。
役割レベル	-	rolelevel	○	
ユーザー	-	groupmembers	-	[ユーザー] は要員と役割間の [実行する] 接続線によって指定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

要員 (ARIS) とユーザー (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [要員 (ユーザー)] オブジェクトに適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
ログオン	AT_LOGIN	Userid	○	ユーザーのユーザー ID は最大 250 文字に制限されています。
名	AT_FIRST_NAME	firstname	○	
姓	AT_LAST_NAME	lastname	○	
		name	-	姓と名の組み合わせ。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
電子メール アドレス	AT_EMAIL_ADDR	email	○	
電話番号	AT_PHONE_NUM	phone	-	
		clients	-	[環境] フィールドは、データのインポート先の環境によって識別されます。
		substitutes	-	[代理] フィールドは、手動でのみ設定されます。 。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

3.2 企業の階層の文書化

組織、プロセス、リスクなどの企業の資産は、ARIS Risk & Compliance Manager の階層要素として使用できます。ARIS Risk & Compliance Manager に転送されるすべての階層に使用できるツリー構造は 1 つだけです。つまり、階層の各要素の上位アイテムは 1 つのみです。ARIS Risk & Compliance Manager ワークフローに関連するオブジェクト（調査タスクなど）で使用されている階層要素は、その上位の階層ツリーを含めて ARIS Risk & Compliance Manager に転送されます。モデルのすべての階層要素を ARIS Risk & Compliance Manager に転送するには、[ARCM の同期] モデル属性 (AT_AAM_EXPORT_RELEVANT) に「true」を設定します。最上位階層要素がまだ ARIS Risk & Compliance Manager に存在しない場合は、ARIS Architect の各関連階層組織に対応する階層要素が ARIS Risk & Compliance Manager に作成されます。



図 2: ARIS Risk & Compliance Manager の最上位階層要素

ARIS Risk & Compliance Manager の階層の表記規則は以下に記載されています。データ階層の表記規則の詳細については、GDPR の ARIS アクセラレーター パッケージのみに付属する『ARIS アクセラレーターの GDPR 表記規則』マニュアルを参照してください。

以下の図は、プロセス モデリングのレベル、およびそのレベルで使用が推奨されるプロセス モデル タイプを示しています。

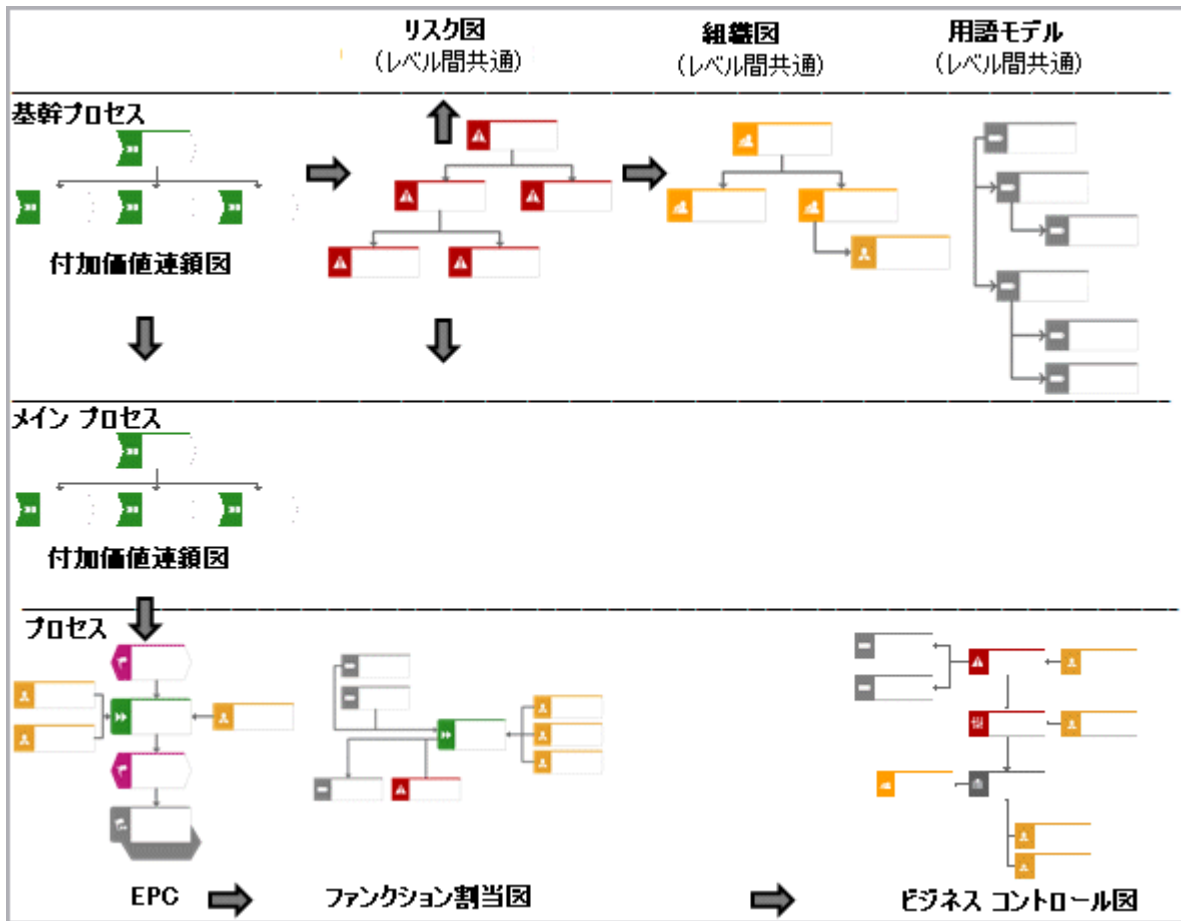


図 3: モデリング レベルおよびモデル タイプ

3.2.1 アプリケーション システム タイプ階層

アプリケーション システム タイプ階層は、[アプリケーション システム タイプ] オブジェクト (OT_APPL_SYS_TYPE) を使用して、ARIS Architect の [アプリケーション システム タイプ図] モデル (MT_APPL_SYS_TYPE_DGM) でモデル化されます。オブジェクト間の階層は、[持つ] 接続線を使用して表されます。



図 4: アプリケーション システム タイプ階層の構造

3.2.1.1 アプリケーション システム タイプ (ARIS) と アプリケーション システム タイプの階層 (ARCM) の割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [階層] オブジェクトに対する ARIS の [アプリケーション システム タイプ] オブジェクトには、次の属性割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
			isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
			タイプ	アプリケーション システム タイプ階層 (値 = 6)
説明/定義	AT_DESC		description	
		○	status	アクティブの場合、ステータスは「true」
モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		modellink	
			modelguid	アプリケーション システム タイプのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できるアプリケーション システム タイプ図が選択されます。
			model_name	モデル名 (上記参照)
オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		objectlink	
オブジェクトの GUID			objectguid	
			children	下位階層要素

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

3.2.2 組織の階層

組織の階層は、[組織ユニット] オブジェクト (OT_ORG_UNIT) を使用して ARIS Architect の [組織図] モデルでモデル化されます。オブジェクト間の階層は、[上位にある] 接続線を使用して表されます。



図 5: 組織階層構造

3.2.2.1 組織ユニット (ARIS) と組織階層要素 (ARCM) の割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [階層] オブジェクトに対する ARIS の [組織ユニット] オブジェクトには、次の属性割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
			isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
説明/定義	AT_DESC		タイプ	組織階層 (値 = 3)
			description	
サインオフ 関連	AT_AAM_SIGN_OFF _RELEVANT	○	status	アクティブの場合、ステータスは「true」
			signoff	サインオフ管理に関してのみ関係します。
モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		modellink	
			modelguid	組織ユニットのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できる組織図が選 択されます。
			model_name	モデル名 (上記参照)
オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		objectlink	
オブジェクトの GUID			objectguid	
			children	下位階層要素

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

3.2.3 プロセス階層

次のプロセス モデルは、プロセス ランドスケープ/プロセス階層を設定するために使用できます。

モデル名	モデル タイプ番号
付加価値連鎖図	12
EPC	13
ファンクション割当図	14
PCD	18
EPC (マテリアル フロー)	50
PCD (マテリアル フロー)	51
EPC (列表示)	134
EPC (行表示)	140
EPC (テーブル表示)	154
EPC (水平テーブル表示)	173
Enterprise BPMN collaboration diagram	272
Enterprise BPMN process diagram	273

次の章には、プロセス ランドスケープのモデル作成例が含まれます。

3.2.3.1 レベル 1 でのプロセス モデリング

概要プロセス モデルはレベル 1 の中心モデルです。このモデルは、[付加価値連鎖図] モデル タイプを使用してモデル化されます。この基幹プロセスの概要はエントリ モデルとして使用されます。

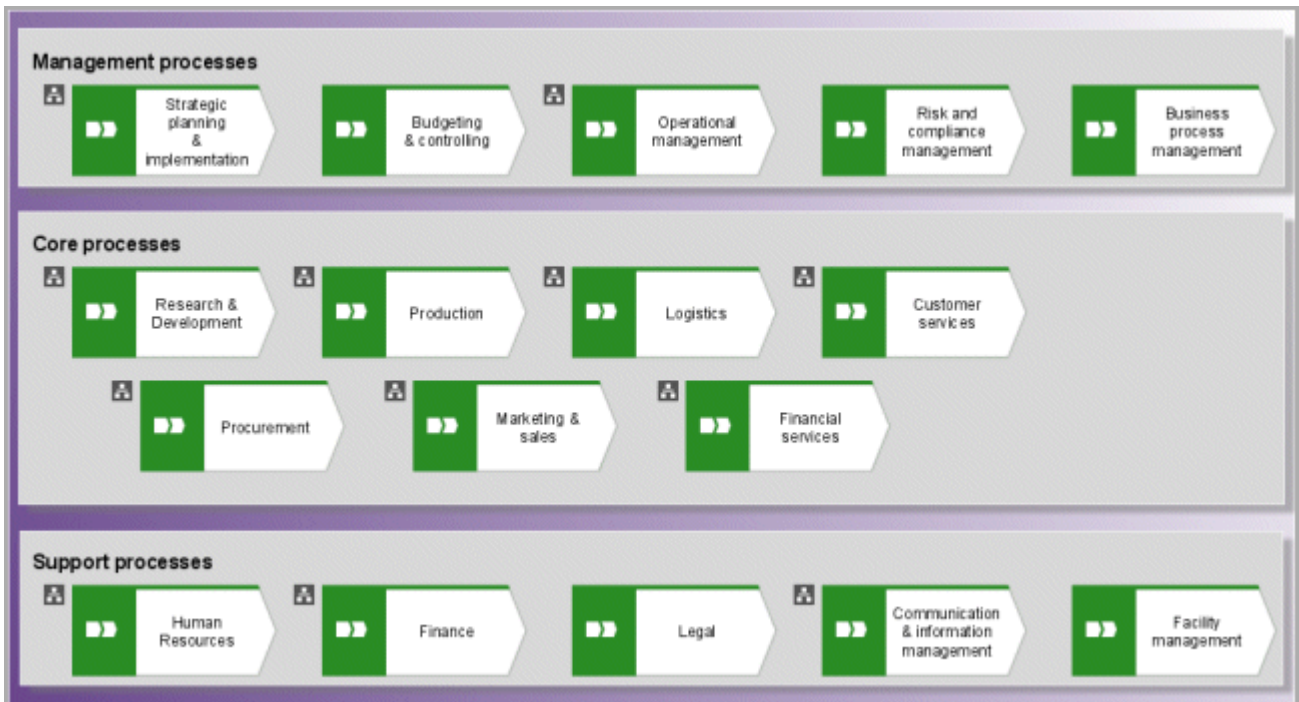


図 6: レベル 1 - 付加価値連鎖図

使用されるオブジェクト タイプは [ファンクション] (OT_FUNC) です。オブジェクト間の階層は、[プロセス指向的に上位にある] 接続線または [プロセス指向的に下位にある] 接続線を使用して表されます。ARIS Risk & Compliance Manager では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各ファンクションの上位ファンクションは 1 つしかありません。次のモデル タイプは、VACD で 1 つのオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション [付加価値連鎖]	VACD
ファンクション [付加価値連鎖]	ファンクション割当図

階層要素は、関連するファンクションごとに ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。例外：最上位階層要素は既に ARIS Risk & Compliance Manager に存在しています。

3.2.3.1.1 ファンクション (ARIS) とプロセス階層要素 (ARCM) の割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [階層] オブジェクトに対する ARIS の [ファンクション] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
			isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
			タイプ	プロセス階層 (値 4)
説明/定義	AT_DESC		description	
			○	status
サインオフ 関連	AT_AAM_SIGN_OFF _RELEVANT		signoff	サインオフ管理に関してのみ関係します。
モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		modellink	
			modelguid	ファンクションのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に使用できるプロセス モデル (EPC、VACD など) が選択されます。
			model_name	モデル名 (上記参照)
オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		objectlink	
オブジェクトの GUID			objectguid	
			children	下位階層要素

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

3.2.3.2 レベル 2 でのプロセスのモデル化 - 付加価値連鎖図 (VACD)

付加価値連鎖図はレベル 2 のモデルとして使われます。レベル 2 は、メイン プロセスを表し、レベル 3 の下位プロセスのコンテキストをマッピングするために使用されます。



図 7: レベル 2 - 付加価値連鎖図

付加価値連鎖としてモデリングされる基幹プロセスに関しても、同様の規則が適用されます。

次のモデル タイプは、VACD でオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション	EPC
ファンクション	ファンクション割当図

3.2.3.3 レベル 3 でのプロセス モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)

EPC を使用して、企業のプロセスを記述することができます。この EPC は、実行される活動の論理的および時系列的な流れに基づいています。さらに、一連のファンクションおよびその結果としてのイベントも使用されます。このような簡略化したプロセスに、追加情報を含むほかのオブジェクト（組織ユニット、役職、役割、アプリケーション システムなど）を補足することができます。

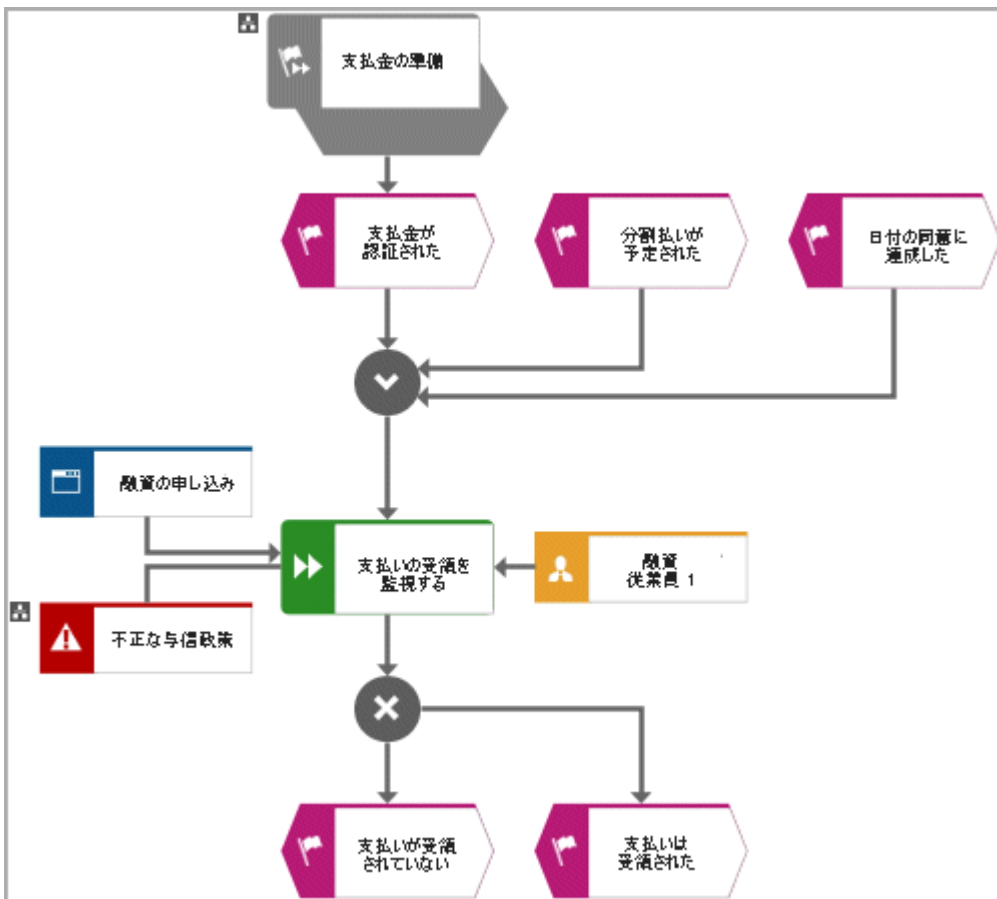


図 8: レベル 3 - イベント駆動プロセス連鎖図

次のモデル タイプは、EPC でオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション	EPC
ファンクション	ファンクション割当図

3.2.4 規定階層

規定階層は、[用語] オブジェクト (OT_TECH_TRM) を使用して、ARIS Architect の [用語] モデル (MT_TECH_TRM_MDL) でモデル化されます。[規定] 属性は、一意に規定 (API 名: AT_AAM_ANNUAL_ACCOUNTS_ITEM) を識別するために使用できます。この属性は、個別の [用語] オブジェクトでも [用語] モデルでも使用できます。モデルで使用された場合、そのモデルのすべての [用語] オブジェクトは既定としてみなされます。オブジェクト間の階層は、[持つ] 接続線を使用して表されます。

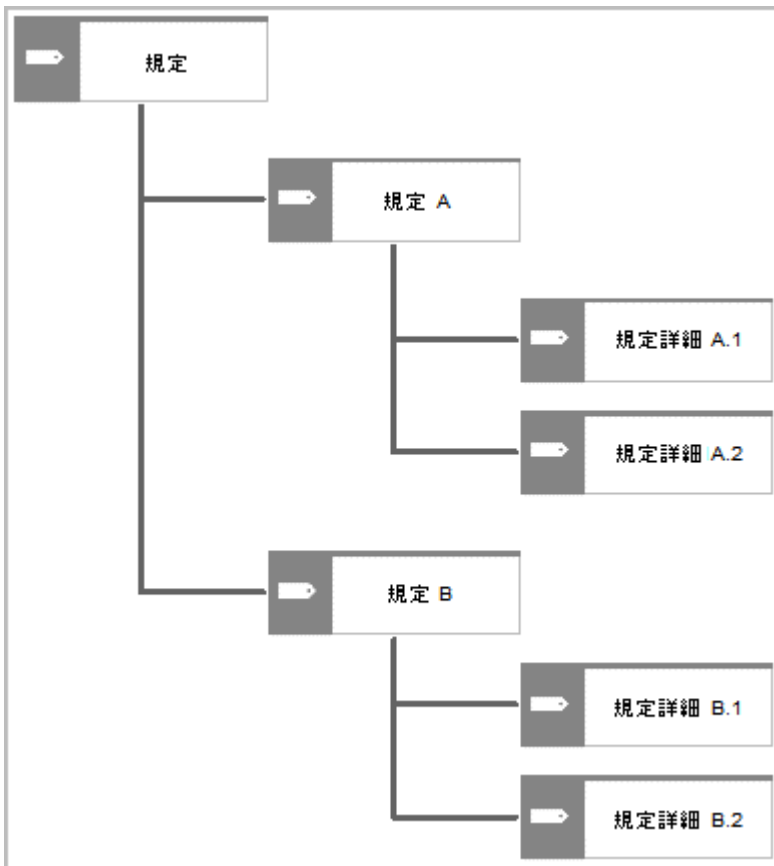


図 9: 規定階層構造

3.2.4.1 [用語] オブジェクトの属性割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [階層] オブジェクトに対する ARIS の [用語] オブジェクトには、次の属性割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
			isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
概要説明	AT_SHORT_DESC		hnumber	
			type	規定階層 (値 2)
説明/定義	AT_DESC		description	
			○ status	アクティブの場合、ステータスは「true」
サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT		signoff	サインオフ管理に関してのみ関係します。
モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		modellink	
			modelguid	用語のオカレンスを含むモデルの GUID。 最初に利用できる用語モデルが選択されます。
			model_name	モデル名 (上記参照)
オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		objectlink	
オブジェクトの GUID			objectguid	
			children	下位階層要素

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

3.2.5 リスク階層

ARIS Architect では、リスク カテゴリの階層は、[リスク] オブジェクト (OT_RISK) および [リスク カテゴリ] オブジェクト (OT_RISK_CATEGORY) を使用して [リスク図] モデル (MT_RISK_DGM) でモデル化されます。リスクは、ここで分類できます。リスクをカテゴリの下位に配置し、関係タイプ [含む] を使用して、そのカテゴリをほかのカテゴリの下位に配置することもできます。リスクをほかのリスクの下位に配置することはできません。

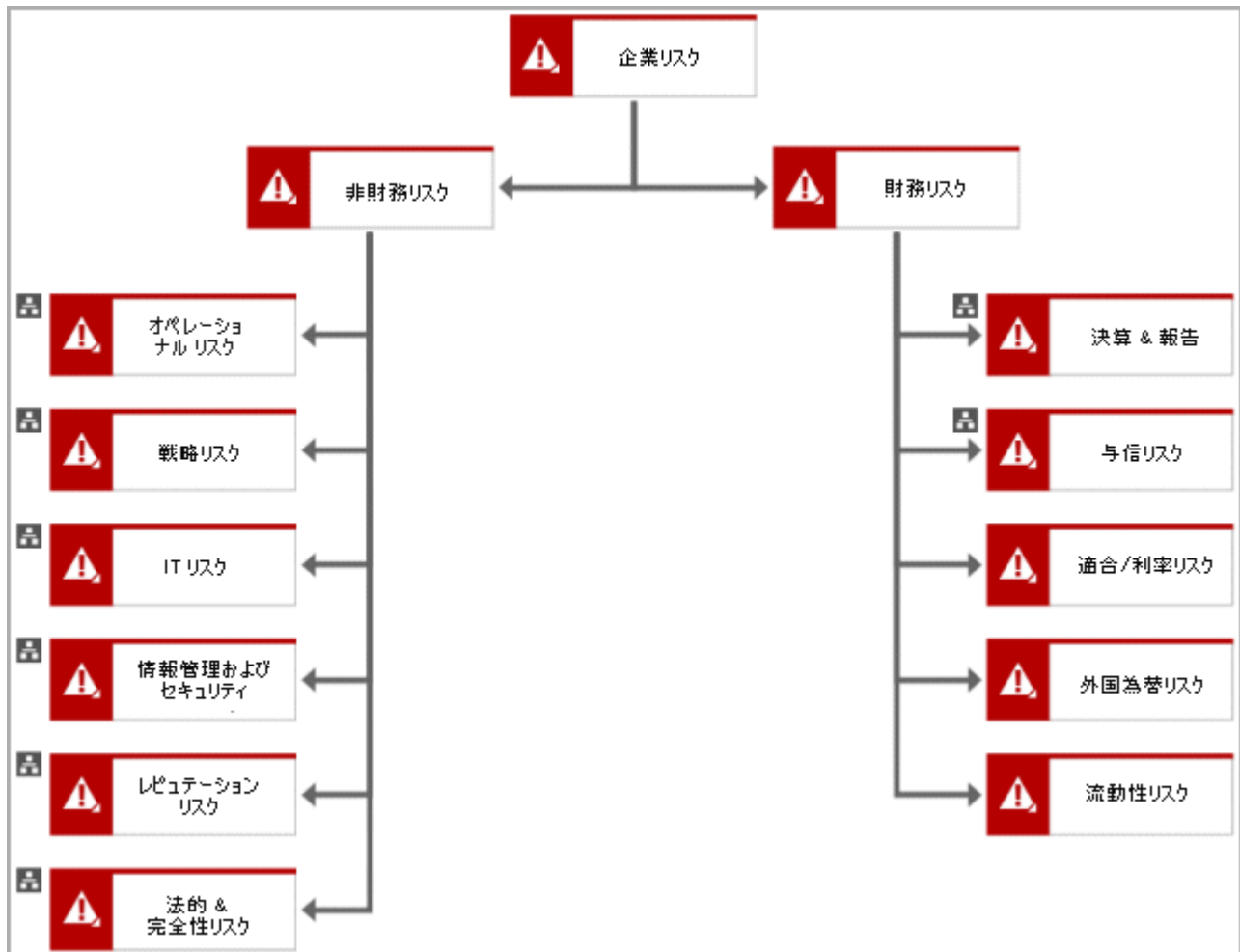


図 10: リスク階層構造

3.2.5.1 リスク カテゴリ (ARIS) とリスク階層 (ARCM) の割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [階層] オブジェクトに対する ARIS の [リスク カテゴリ] オブジェクトには、次の属性割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
			isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
			タイプ	リスク階層 (値 = 5)
説明/定義	AT_DESC		description	
			○ status	アクティブの場合、ステータスは「true」
モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		modellink	
			modelguid	リスク カテゴリのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できるリスク図が選択されます。
			model_name	モデル名 (上記参照)
オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		objectlink	
オブジェクトの GUID			objectguid	
			children	下位階層要素

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

3.2.6 検査者の階層

検査者の階層は、[組織ユニット] オブジェクト (OT_ORG_UNIT) を使用して ARIS の組織図でモデル化されます。オブジェクト間の階層は、[上位にある] 接続線を使用して表されます。

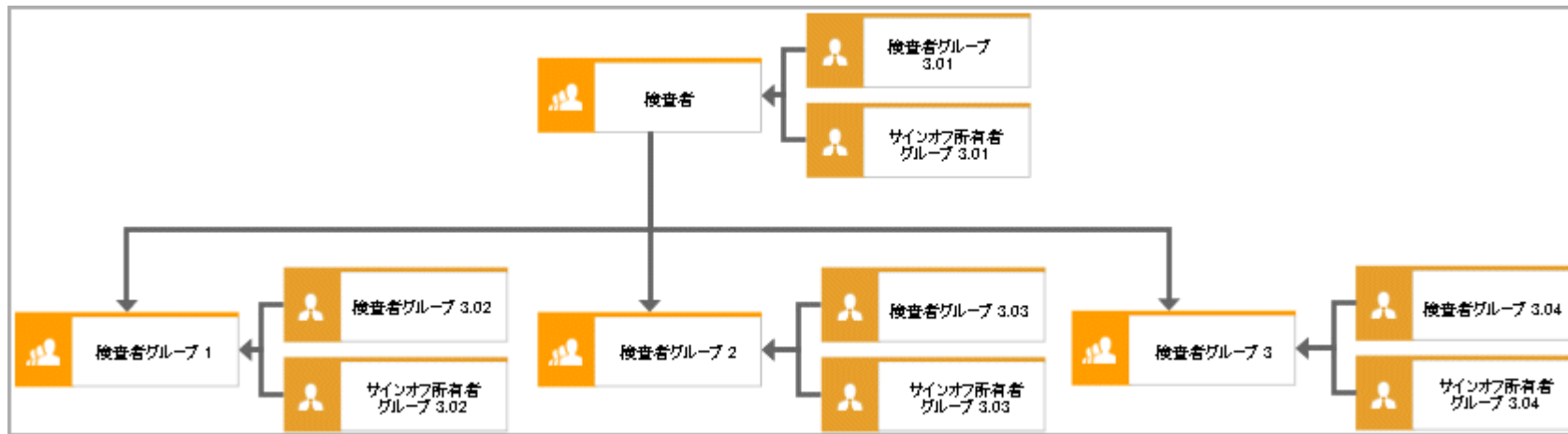


図 11: 検査者の階層

そのため、ARIS Risk & Compliance Manager では検査者の階層要素は組織ユニットごとに作成されます（例外：最上位階層要素は既に ARIS Risk & Compliance Manager に存在しています）。現在、各階層要素は、1 ユーザー グループにのみ割り当てることができます。

このため、上の例では検査者階層要素 [検査者]、[検査者グループ 1]、[検査者グループ 2]、[検査者グループ 3] が ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。[検査者] は、ほかの階層要素の上位に位置します。

3.2.6.1 組織ユニット (ARIS) と検査者階層要素 (ARCM) の割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [階層] オブジェクトに対する ARIS の [組織ユニット] オブジェクトには、次の属性割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
			isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
			hnumber	検査者階層には関係なし
			type	検査者階層 (値 = 1)
説明/定義	AT_DESC	○	description	
			status	アクティブの場合、ステータスは「true」
サインオフ 関連	AT_AAM_SIGN_OFF_ RELEVANT		signoff	
モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		modellink	
			modelguid	組織ユニットのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できる組織図が選択 されます。
			model_name	モデル名 (上記参照)
オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		objectlink	
オブジェクトの GUID			objectguid	
			children	下位階層ユニット
			so_owner	関連するサインオフ所有者グループ
			tester	関連する検査者グループ

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

4 監査管理表記規則

4.1 監査テンプレートの生成

4.1.1 監査の概要

マスター データの管理を簡易化するために ARIS Architect で監査テンプレートをモデル化できます。これには、[プロジェクト スケジュール] (MT_PROJECT_SCHEDULE) モデルを使用できます。

4.1.1.1 モデルのプロパティ

属性ベースのモデリングを使用するには、属性ベースのモデリングの行/列プロパティを指定する必要があります。列ヘッダーを右クリックして、[プロパティ] の [書式] から [属性ベースのモデリング] を選択して、次のアイテムを設定します。

位置の属性: 開始日 (AT_DATE_START)

次元の属性: 最大合計時間 (AT_MAX_TL_TIME)

属性依存のシンボル: 位置と次元を [タスク] オブジェクトに許可する必要があります。

4.1.1.2 オブジェクト、関係、および属性

[プロジェクト スケジュール] モデルでは次のオブジェクトを使用できます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
タスク	プロジェクト	OT_FUNC_INST		監査テンプレート
役割	役割	OT_PERS_TYPE		監査所有者、監査評価者、監査監査者 (選択した役割による)

次の接続線を使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
タスク (プロジェクト)	実行される	役割	最初の列 (組織要素) に組織ユニットをモデル化すると、タスクへの非表示の接続線が自動的に生成されます。

4.1.1.2.1 タスク (ARIS) と監査テンプレート (ARCM) の割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [監査テンプレート] オブジェクトに対する ARIS の [タスク (プロジェクト)] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	最大 250 文字まで。
説明	AT_DESC	description		
開始日	AT_DATE_START	auditstartdate	○	監査の開始日。関係者全員にタスクに関する通知が送られます。
	-	auditenddate		開始日に最大合計時間を加算して計算されます。
最大合計時間	AT_MAX_TL_TIME	-	○	
週末休み	AT_WEEKEND_OFF	-		[週末休み] オプションが選択されている場合は、期間に週末が含まれる場合に最大合計時間が 2 日延長されます。
監査クライアント	AT_AUDIT_CLIENT	audit_client		監査をリクエストする組織または要員。
ARCM の同期	AT_AAM_EXPORT_RELEVANT	-		この属性は、監査テンプレートを ARIS Risk & Compliance Manager と同期するかどうかを指定します。
監査の目標	AT_AUDIT_OBJECTIVE	objectives		監査の目標の定義。
監査準備の開始日	AT_START_DATE_OF_AUDIT_PREPARATION	plannedstartdate	○	準備段階の開始日。監査が生成されます。
統制期間の開始日	AT_START_DATE_OF_CONTROL_PERIOD	controlstartdate	○	監査を実施する統制期間の開始日。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
統制期間の終了日	AT_END_DATE_OF_CONTROL_PERIOD	controlenddate	○	監査を実施する統制期間の終了日。
タイトル 1 タイトル 2 タイトル 3 タイトル 4	AT_TITL1 AT_TITL2 AT_TITL3 AT_TITL4	文書: ▪ 名前 ▪ タイトル		リンクした文書を示します。
リンク 1 リンク 2 リンク 3 リンク 4	AT_EXT_1 AT_EXT_2 AT_EXT_3 AT_LINK	文書: ▪ リンクを開いてください		リンクした文書を示します。
ARIS 文書格納タイトル 1 ARIS 文書格納タイトル 2 ARIS 文書格納タイトル 3 ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL1 AT_ADS_TITL2 AT_ADS_TITL3 AT_ADS_TITL4	文書: ▪ 名前 ▪ タイトル		リンクした文書を示します。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1	文書: ▪ リンクを開いてください		リンクした文書を示します。
ARIS 文書格納リンク 2				
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_2			
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_3			
	AT_ADS_LINK_4			

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

4.1.2 監査手順の概要

[プロジェクト スケジュール] タイプ (MT_PROJECT_SCHEDULE) のモデルを監査テンプレート (タスク (プロジェクト)) に割り当てて、監査テンプレートの監査手順テンプレートを定義できます。

4.1.2.1 モデルのプロパティ

属性ベースのモデリングを使用するには、属性ベースのモデリングの行/列プロパティを指定する必要があります。列ヘッダーを右クリックして、[プロパティ] の [書式] から [属性ベースのモデリング] を選択して、次のアイテムを設定します。

位置の属性: 開始日 (AT_DATE_START)


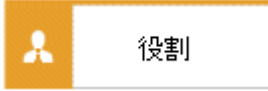
次元の属性: 最大合計時間 (AT_MAX_TL_TIME)

属性依存のシンボル: 位置と次元を [タスク] オブジェクトに許可する必要があります。

4.1.2.2 オブジェクト、関係、および属性

オブジェクトと名前 (監査手順)

[プロジェクト スケジュール] モデルでは次のオブジェクトを使用できます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
タスク	タスク	OT_FUNC_INST		監査手順テンプレート
役割	役割	OT_PERS_TYPE		監査手順所有者

接続線 (監査手順)

次の接続線を使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
タスク (タスク)	実行される	役割	最初の列 (組織要素) に組織ユニットをモデル化すると、タスクへの非表示の接続線が自動的に生成されます。
タスク (タスク)	属する	タスク (タスク)	上位のタスクを定義します。

4.1.2.2.1 タスク (ARIS) と監査手順テンプレート (ARCM) の割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [監査手順テンプレート] オブジェクトに対する ARIS の [タスク (タスク)] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	最大 250 文字まで。
説明	AT_DESC	description		
開始日	AT_DATE_START	plannedstartdate	○	監査手順の計画された開始日。
	-	plannedenddate		開始日に最大合計時間を加算して計算されます。
最大合計時間	AT_MAX_TL_TIME	-	○	
週末休み	AT_WEEKEND_OFF	-		[週末休み] オプションが選択されている場合は、期間に週末が含まれる場合に最大合計時間が 2 日延長されます。
必要な処理時間	AT_DES_PROC_TIME	processingtime	○	監査手順の実行に計画された期間
監査手順タイプ	AT_AUDIT_STEP_TYPE	監査手順タイプ		監査手順の次のタスク タイプを決定します。 <ul style="list-style-type: none"> ▪ ロジスティクス タスク ▪ 監査タスクのテーマ
タイトル 1	AT_TITL1	文書:		
タイトル 2	AT_TITL2	▪ 名前		
タイトル 3	AT_TITL3	▪ タイトル		
タイトル 4	AT_TITL4			

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
リンク 1	AT_EXT_1	文書: ▪ リンクを開いてくだ さい		
リンク 2	AT_EXT_2			
リンク 3	AT_EXT_3			
リンク 4	AT_LINK			
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1	文書: ▪ 名前 ▪ タイトル		
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2			
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3			
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4			
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1	文書: ▪ リンクを開いてくだ さい		
ARIS 文書格納リンク 2				
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_2			
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_3 AT_ADS_LINK_4			


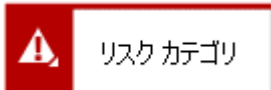
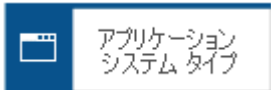

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。



4.1.3 範囲の定義

監査または監査手順の範囲を定義するには、[タスク割当図] (MT_FUNC_ALLOC_DGM_INST) を使用できます。選択した範囲にしたがって、テスト ケース、リスク評価などの関係する要素（定義された統制期間でフィルター）が ARIS Risk & Compliance Manager で割り当てられている監査/監査手順に表示されます。

オブジェクトと名前（範囲）

[タスク割当図] では次のオブジェクトを使用できます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
タスク	プロジェクト/タスク	OT_FUNC_INST		監査/監査手順
リスク カテゴリ	リスク カテゴリ	OT_RISK_CATEGORY		リスク カテゴリ
アプリケーション システム タイプ	アプリケーション システム タイプ	OT_APPL_SYS_TYPE		アプリケーション システム タイプ
ファンクション	ファンクション	OT_FUNC		プロセス

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
組織ユニット	組織ユニット	OT_ORG_UNIT		組織
用語	用語	OT_TECH_TRM		規定

次の接続線を使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト
リスク カテゴリ	範囲内である	タスク
アプリケーション システム タイプ	範囲内である	タスク
ファンクション	範囲内である	タスク
組織ユニット	範囲内である	タスク
用語	範囲内である	タスク

各監査/監査手順には [範囲内である] タイプの接続線は 1 本のみ使用できます。

5 統制管理表記規則

5.1 統制実行タスクとその関係の作成

5.1.1 オブジェクトと関係

統制管理のためのオブジェクトと関係を ARIS で作成して、マスター データの保守を容易にすることができます。これには、[ビジネス コントロール図] モデル (MT_BUSY_CONTR_DGM) を使用できます。次のオブジェクトと、オブジェクト間の関係が使用されます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
統制	開始される	統制実行タスク	統制実行タスクは、統制実行記録の説明に使用されません。たとえば、記録アクティビティ、頻度、結果形式を指定します。
統制実行タスク	影響する	組織ユニット	記録の影響を受ける組織ユニットを割り当てます。
役割	割り当てられている	統制実行タスク	(統制実行管理者の役割がともなう) ユーザー グループを担当グループとして統制実行タスクに割り当てます。

5.1.2 統制実行タスクの属性

ARIS Risk & Compliance Manager の [統制実行タスク] オブジェクトに対する ARIS の [統制実行タスク] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	
オブジェクトの GUID		GUID	○	
統制記録アクティビティ	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_DOC	activities		統制実行の記録に必要なアクティビティを記述します。
選択	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_SELECTIVITY	selectivity		実行される記録の範囲（完全な記録、サンプル、サンプル %、サンプル数）を示します。
結果形式	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_RESULT_FORMAT	result_format		計算結果の形式を示します。
統制記録の頻度	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_FREQUENCY	frequency	○	統制実行が記録される間隔を示します。使用できるオプション： <ul style="list-style-type: none"> ▪ 単発 ▪ 日次 ▪ 週次 ▪ 月次 ▪ 四半期 ▪ 半期 ▪ 年次 ▪ 隔年 ▪ なし（イベント駆動のみ）

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
イベント駆動統制記録許可	AT_EVENT_DRIVEN_CTRL_EXECUTION_ALLOWED	event_driven_allowed		アドホックの統制記録実行の生成が許可されていることを示します。
統制実行記録の期限(単位: 日)	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_DURATION	duration	(○)	統制実行所有者が統制実行記録を使用できる日数を示します。この期間が、統制実行記録を完了しなければならない日付を決定します。[統制記録の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
開始日	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_START_DATE	startdate	(○)	統制実行の記録の開始日を示します。[統制記録の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
終了日	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_END_DATE	enddate		統制実行の記録の終了日を示します。
記録期間の長さ	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_CTRL_PERIOD	control_period		統制実行が記録される期間を指定します。使用できるオプション: <ul style="list-style-type: none"> ▪ 単発 ▪ 日次 ▪ 週次 ▪ 月次 ▪ 四半期 ▪ 半期 ▪ 年次 ▪ 隔年 ▪ なし (イベント駆動のみ)
オフセット (単位: 日)	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_OFFSET	統制期間のオフセット		記録作成期間に先行する記録を作成した期間の日数を示します。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
タイトル 1	AT_TITL1	文書： <ul style="list-style-type: none"> ▪ 名前 ▪ タイトル 		リンクした文書を示します。
タイトル 2	AT_TITL2			
タイトル 3	AT_TITL3			
タイトル 4	AT_TITL4			
リンク 1	AT_EXT_1	文書： <ul style="list-style-type: none"> ▪ リンクを開いてくだ さい 		リンクした文書を示します。
リンク 2	AT_EXT_2			
リンク 3	AT_EXT_3			
リンク 4	AT_LINK			
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1	文書： <ul style="list-style-type: none"> ▪ 名前 ▪ タイトル 		リンクした文書を示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2			
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3			
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4			

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1	文書: <ul style="list-style-type: none"> リンクを開いてください 		リンクした文書を示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2			
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3			
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4			
		affected_orgunit	○	組織ユニットへの接続線を使用して識別されます。関連する組織ユニットへの対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
		owner_group	○	役割への接続線を使用して識別されます。割り当てられた統制実行所有者グループを指定します。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

6 統制ベースの検査管理の表記規則

6.1 リスクおよびプロセスの識別

6.1.1 レベル 3 のプロセスおよび統制モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)

EPC を使用して、企業のプロセスを記述することができます。この EPC は、実行される活動の論理的および時系列的な流れに基づいています。さらに、一連のファンクションおよびその結果としてのイベントも使用されます。このような簡略化したプロセスに、追加情報を含むほかのオブジェクト（組織ユニット、役職、役割、アプリケーション システムなど）を補足することができます。このため、たとえば [実行される] 接続線を持つ統制は、EPC のファンクションに直接接続できます。

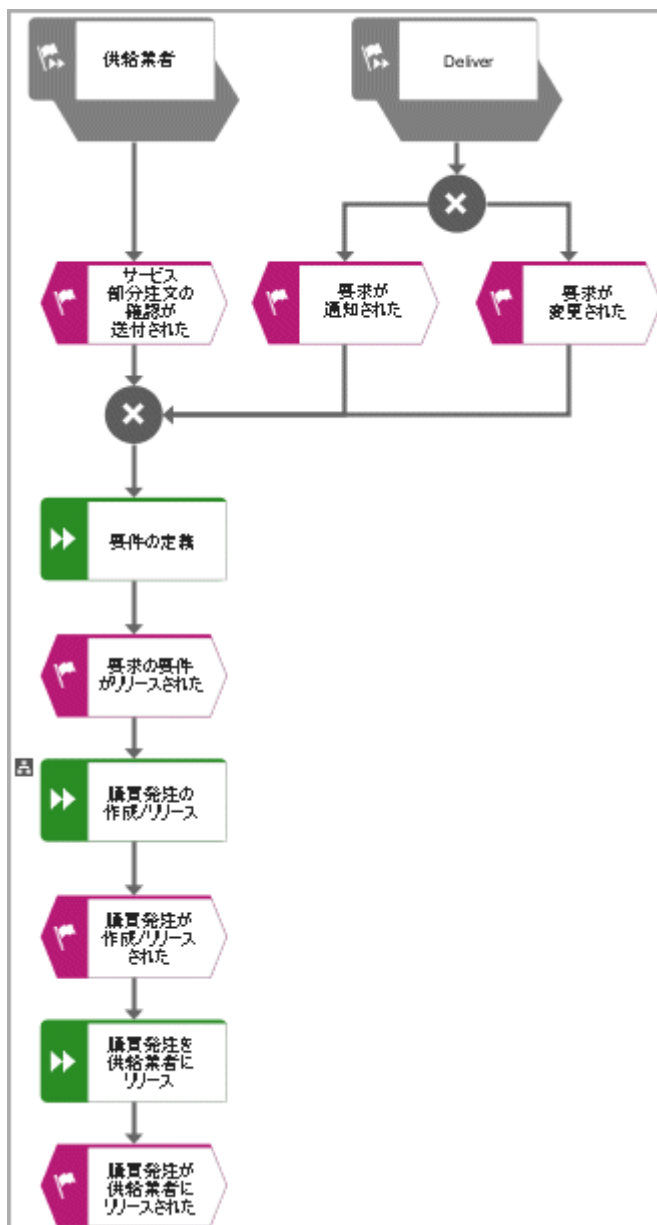


図 12: レベル 3 - イベント駆動プロセス連鎖図

次のモデル タイプは、EPC でオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション	EPC
ファンクション	ファンクション割当図
統制 (OT_FUNC、ST_CONTR)	EPC
統制 (OT_FUNC、ST_CONTR)	ビジネス コントロール図

レベル 3 - ファンクション割当図 (FAD)

EPC は、簡略化した EPC (つまり、組織ユニット、役職およびアプリケーション システムを含めない) としてモデル化することもできます。こうした追加オブジェクトとファンクションとの関係は、ファンクション割当図でモデル化され、ファンクションにアサインされます。ファンクション割当図のオブジェクトとシンボル タイプを使用することによって、簡略 EPC を拡張 EPC にすることができます。そのオブジェクトとシンボル タイプは次のとおりです。

- ファンクション
- 役職
- 組織ユニット
- 組織ユニット タイプ
- グループ
- 役割
- 内部要員
- アプリケーション システム
- アプリケーション システム タイプ
- 情報媒体 (ファイル、文書)
- 統制 (オブジェクト タイプ: OT_FUNC、シンボル タイプ: ST_CONTR)

6.2 統制およびリスクの分析と、検査の展開

プロセスで識別された統制に関して、関連するリスクおよび検査の定義（責任を含む）は、ビジネス コントロール図で定義できます。また、どの統制がどの貸借対照表項目に影響を及ぼすかといった、企業階層への影響についても、記録することができます。

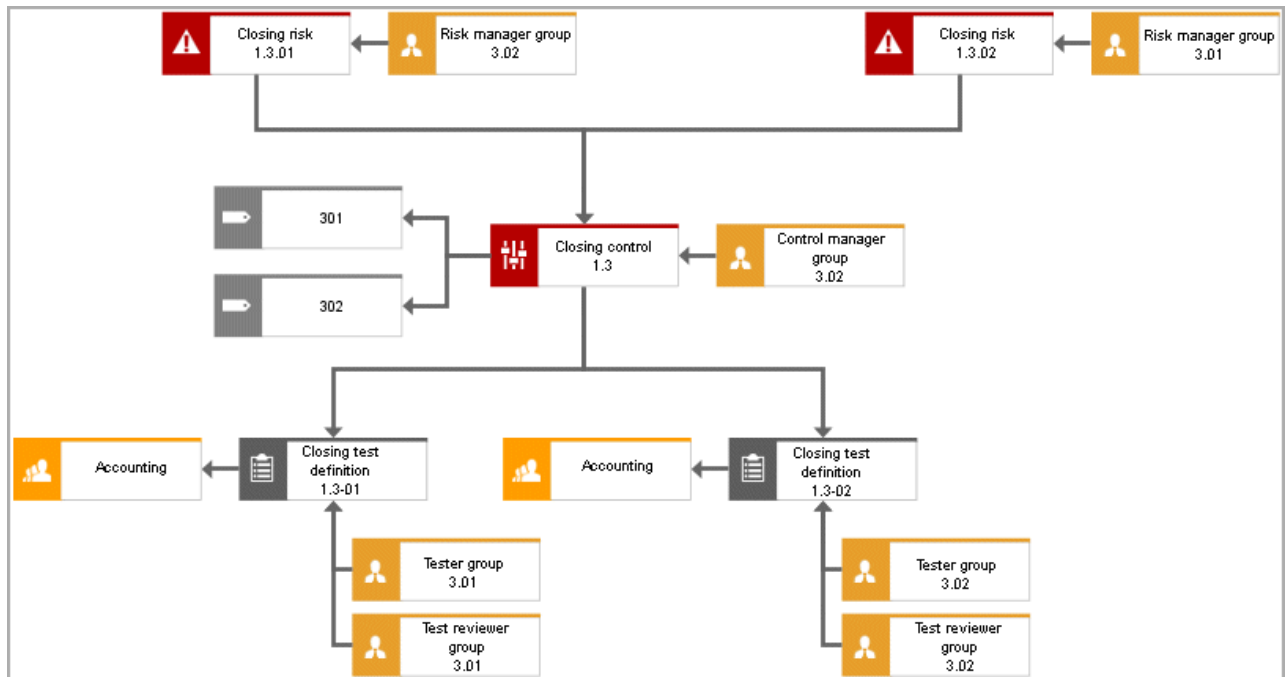


図 13: ビジネス コントロール図の構造

リスク担当者グループ、検査担当者グループ、および統制担当者グループの割り当てはオプションです。

リスク オブジェクトと関連オブジェクトの関係

次の接続線がビジネス コントロール図のオブジェクトで使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
統制	影響する	用語	この接続線によって、規定への関係が作成される。
統制	監視される	検査の定義	この接続線によって、検査の定義への関係が作成される。
統制	技術的責任を持つ	役割	この接続線によって、統制担当者への関係が作成される。
リスク	技術的責任を持つ	役割	この接続線によって、リスク担当者への関係が作成される。
リスク	減らされる	統制	この接続線によって、統制への関係が作成される。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
検査の定義	影響する	組織ユニット	この接続線によって、関係する組織ユニットへの関係が作成される。
検査の定義	割り当てられている	役割	この接続線によって、検査者、検査評価者および検査担当者への関係が作成される。

6.2.1 統制

統制は、[ファンクション] オブジェクト (OT_FUNC) とそのデフォルト シンボル (ST_CONTR) を使用して ARIS でモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager では、[ARCM の同期] 属性が設定されている統制ごとに統制が作成されます。統制は一意に定義する必要があり、再使用はできません。

ファンクション (統制) (ARIS) と統制 (ARCM) の割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [統制] オブジェクトに対する ARIS の [ファンクション (統制)] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
統制 ID	AT_AAM_CTRL_ID		control_id	
			manager_group	役割への接続線によって指定され、統制担当者への対応するリンクが ARIS Risk & Compliance Manager に保存される。
統制の頻度	AT_AAM_CTRL_FREQUENCY		control_frequency	
統制の実行	AT_AAM_CTRL_EXECUTION_MANUAL AT_AAM_CTRL_EXECUTION_IT		control_execution	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
統制の効果	AT_AAM_CTRL_EFFECT		control_effect	

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
内部統制の構成要素	AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ENVIRONMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_RISK_ASSESSMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ACTIVITIES AT_AAM_COSO_COMPONENT_INFO_COMMUNICATION AT_AAM_COSO_COMPONENT_MONITORING		control_type	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
統制活動	AT_AAM_CTRL_ACTIVITY		controls	
統制の目的	AT_AAM_CTRL_OBJECTIVE		control_objective	
キー コントロール	AT_AAM_KEY_CTRL		key_control	
アサーション	AT_AAM_ASSERTIONS_EXIST_OCCURRENCE AT_AAM_ASSERTIONS_COMPLETENESS AT_AAM_ASSERTIONS_RIGHTS_OBLIGATIONS AT_AAM_ASSERTIONS_VALUATION_ALLOCATION AT_AAM_ASSERTIONS_PRESENTATION_DISCLOSURE AT_AAM_ASSERTIONS_NA		assertions	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。値の依存性が存在する。最初の 5 つの値は、最後のエン트리と組み合わせて発生できない。
			control_function	ファンクションへの接続線を使用して識別されます。プロセス階層要素への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されません。
			testdefinitions	検査の定義への接続線を使用して識別されます。検査の定義への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
		○	financial_statement	用語への接続線を使用して識別されます。規定階層要素への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

6.2.2 リスク

リスクは、[リスク] オブジェクト (OT_RISK) を使用して ARIS でモデル化します。[ARCM の同期] 属性が設定されている統制でモデル化されるリスクのみが ARIS Risk & Compliance Manager との同期に関連します。リスクは再使用できます。

リスク (ARIS) とリスク (ARCM) の割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [リスク] オブジェクトに対する ARIS の [リスク] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
リスク ID	AT_AAM_RISK_ID		risk_id	
リスク タイプ	AT_AAM_RISK_TYPE_FINANCIAL_REPORT AT_AAM_RISK_TYPE_COMPLIANCE AT_AAM_RISK_TYPE_OPERATIONS AT_AAM_RISK_TYPE_STRATEGIC		risktype	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
説明/定義	AT_DESC		description	
影響	AT_AAM_IMPACT		impact	

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
確率	AT_AAM_PROBABILITY		probability	
リスク カタログ 1	AT_AAM_RISK_CATALOG_1		risk_catalog1	
リスク カタログ 2	AT_AAM_RISK_CATALOG_2		risk_catalog2	
タイトル 1	AT_TITL1		文書: <ul style="list-style-type: none"> ▪ 名前 ▪ タイトル 	リンクした文書を示します。
タイトル 2	AT_TITL2			
タイトル 3	AT_TITL3			
タイトル 4	AT_TITL4			
リンク 1	AT_EXT_1		文書: <ul style="list-style-type: none"> ▪ リンクを開いてください 	リンクした文書を示します。
リンク 2	AT_EXT_2			
リンク 3	AT_EXT_3			
リンク 4	AT_LINK			
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		文書: <ul style="list-style-type: none"> ▪ 名前 ▪ タイトル 	リンクした文書を示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2			
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3			
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4			

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
ARIS 文書格納リンク 1 ARIS 文書格納リンク 2 ARIS 文書格納リンク 3 ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_1 AT_ADS_LINK_2 AT_ADS_LINK_3 AT_ADS_LINK_4		文書: ▪ リンクを開いてください	リンクした文書を示します。
			controls	統制への接続線を使用して識別されます。統制への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
			manager_group	役割への接続線を使用して識別されます。リスク担当者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。

*M 列では属性が必須項目であるかが示されます。

6.2.3 検査の定義

検査の定義は、[検査の定義] オブジェクト (OT_TEST_DEFINITION) を使用して ARIS でモデル化します。[ARCM の同期] 属性が設定されている統制でモデル化される検査の定義のみが ARIS Risk & Compliance Manager との同期に関連します。

検査定義 (ARIS) と検査の定義 (ARCM) の割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [検査定義] オブジェクトに対する ARIS の [検査定義] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
検査活動	AT_AAM_TEST_ACTIVITY		testingsteps	
検査の種類	AT_AAM_TEST_NATURE_INQUIRY AT_AAM_TEST_NATURE_OBSERVATION AT_AAM_TEST_NATURE_EXAMINATION AT_AAM_TEST_NATURE_REPERFORMANCE		test_nature	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
検査タイプ	AT_AAM_TEST_TYPE_DESIGN AT_AAM_TEST_TYPE_EFFECTIVENESS	○	test_type	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
検査の規模	AT_AAM_TEST_SCOPE		testextend	
		○	owner_group	役割への接続線を使用して識別されます。検査者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
イベント駆動のテスト ケース許可	AT_EVENT_DRIVEN_TESTS_ALLOWED		event_driven_allowed	「true」が設定されている場合は、検査の定義は自動の統制検査にのみ使用されます。同時に、[検査の頻度] 属性は [場合に応じる] に設定されている必要があります。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
検査の頻度	AT_AAM_TEST_FREQUENCY	○	testfrequency	
実行期限 (単位: 日)	AT_AAM_TEST_DURATION	(○)	testduration	[検査の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
検査の定義の開始日	AT_AAM_TESTDEF_START_DATE	(○)	testdefinition_startdate	[検査の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
検査の定義の終了日	AT_AAM_TESTDEF_END_DATE		testdefinition_enddate	
統制期間の長さ	AT_AAM_TESTDEF_CTRL_PERIOD	○	control_period	
オフセット (単位: 日)	AT_AAM_TESTDEF_OFFSET		offset	
		○	reviewer_group	[検査評価者] の役割を使用している役割への接続線を使用して識別されます。検査評価者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
			manager_group	[検査担当者] の役割を使用している役割への接続線を使用して識別されます。検査担当者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
		○	effected_orgunit	組織ユニット、グループ、役職、または場所への接続線を使用して識別されます。関連する組織ユニットへの対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
フォローアップ使用可	AT_AAM_TESTDEF_FOLLOWUP		isfollowup	

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

6.3 一般モデル作成規則

モデル化されたビジネス コントロール図内の統制は一意である必要があり、2 つ以上のビジネス コントロール図にオカレンスを持つことはできません。統制は、1 つのファンクションと、最低 1 つの検査の定義に接続することができます。

リスクは 1 つのビジネス コントロール図のみに 1 つのオカレンスを持つことができます。リスクは、[ARCM の同期] 属性が設定されている最低 1 つの統制に接続できます。

検査の定義は、モデル化されたビジネス コントロール図内で一意である必要があり、2 つ以上のビジネス コントロール図でオカレンスを持つことはできません。同時に検査の定義は、[ARCM の同期] 属性が設定されている 1 つの統制に接続することができます。

6.3.1 自動の統制検査

イベントを有効にすることによって自動の統制検査を実行するには、[イベント駆動のテスト ケース許可] 属性を「true」に設定する必要があります。自動の統制検査は、外部イベントなどによりアドホックで実行されます。

さらに、年内にシステムによってテスト ケースが生成されないように、[場合に応じる] 属性値を [検査の頻度] 属性に選択する必要があります。この頻度は、アドホックの検査を処理するためにのみ使用されます。

7 オペレーショナル リスク管理の表記規則

7.1 リスクおよびプロセスの識別

7.1.1 レベル 3 でのプロセスおよびリスク モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)

EPC を使用して、企業のプロセスを記述することができます。この EPC は、実行される活動の論理的および時系列的な流れに基づいています。さらに、一連のファンクションおよびその結果としてのイベントも使用されます。このような簡略化したプロセスに、追加情報を含むほかのオブジェクト（組織ユニット、役職、役割、アプリケーション システムなど）を補足することができます。

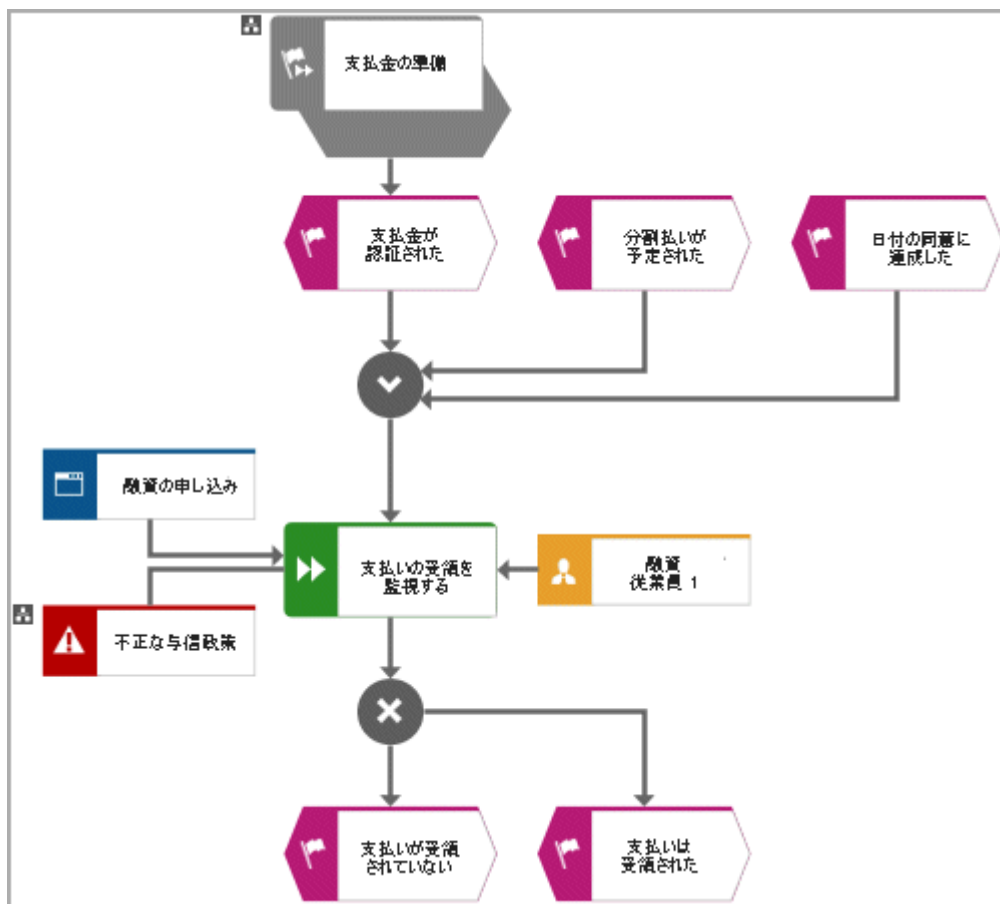


図 14: レベル 3 - イベント駆動プロセス連鎖図

次のモデル タイプは、EPC でオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション	EPC
ファンクション	ファンクション割当図
リスク	EPC
リスク	ビジネス コントロール図
リスク	KPI 割当図

7.2 リスクの分析とリスク評価の構造

プロセスで識別されたリスクについては、評価に関係のある責任とオブジェクトの定義は KPI 割当図で行うことができます。つまり、どのリスクがどの組織ユニットに影響を及ぼすかといった、企業階層への影響を記録することができます。



図 15: KPI 割当図の構造

リスク所有者とリスク評価者の割り当て以外のすべての割り当ては、オプションです。

リスク オブジェクトの関係

次の接続線が KPI 割当図のオブジェクトで使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
リスク	技術的責任を持つ	役割	この接続線によって、リスク所有者、リスク担当者、およびリスク評価者への関係が作成される
リスク	影響する	組織ユニット	この接続線によって、組織階層への関係が作成される
リスク	影響する	用語	この接続線によって、規定階層への関係が作成される[リスク タイプ] リスク属性に[財務報告]も選択されている場合は、必須の関係になる。
リスク	影響する	アプリケーション システム タイプ	この接続線によって、アプリケーション システム タイプの階層への関係が作成される
リスク	測定方法である	KPI インスタンス	この接続線によって、KPI への関係が作成される。現在のところ、ARIS Risk & Compliance Manager には転送できない。
リスク	影響を受ける	タスク	この接続線によって、措置への関係が作成される。現在のところ、ARIS Risk & Compliance Manager には転送できない。

7.2.1 リスク

リスクは、[リスク] オブジェクト (OT_RISK) を使用して ARIS Architect でモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager では、[ARCM の同期] 属性が設定されているリスクごとにリスクが作成されます。ARIS Risk & Compliance Manager の [リスク] オブジェクトに対する ARIS の [リスク] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
リスク ID	AT_AAM_RISK_ID		risk_id	
リスク タイプ	AT_AAM_RISK_TYPE_FINANCIAL_REPORT AT_AAM_RISK_TYPE_COMPLIANCE AT_AAM_RISK_TYPE_OPERATIONS AT_AAM_RISK_TYPE_STRATEGIC		risktype	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
説明/定義	AT_DESC		description	
			risk_function	ファンクションへの接続線を使用して識別されます。プロセス階層要素への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
			financial_statement	用語への接続線を使用して識別されます。規定階層要素への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
影響	AT_AAM_IMPACT		impact	
確率	AT_AAM_PROBABILITY		probability	

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

リスク (ARIS) とリスク (ARCM) の割り当て

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
リスク カタログ 1	AT_AAM_RISK_CATALOG_1		risk_catalog1	
リスク カタログ 2	AT_AAM_RISK_CATALOG_2		risk_catalog2	
タイトル 1 タイトル 2 タイトル 3 タイトル 4	AT_TITL1 AT_TITL2 AT_TITL3 AT_TITL4		文書: ▪ 名前 ▪ タイトル	リンクした文書を示します。
リンク 1 リンク 2 リンク 3 リンク 4	AT_EXT_1 AT_EXT_2 AT_EXT_3 AT_LINK		文書: ▪ リンクを開いてくだ さい	リンクした文書を示します。
ARIS 文書格納タイトル 1 ARIS 文書格納タイトル 2 ARIS 文書格納タイトル 3 ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL1 AT_ADS_TITL2 AT_ADS_TITL3 AT_ADS_TITL4		文書: ▪ 名前 ▪ タイトル	リンクした文書を示します。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
ARIS 文書格納リンク 1 ARIS 文書格納リンク 2 ARIS 文書格納リンク 3 ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_1 AT_ADS_LINK_2 AT_ADS_LINK_3 AT_ADS_LINK_4		文書: <ul style="list-style-type: none"> リンクを開いてください 	リンクした文書を示します。
			manager_group	役割への接続線を使用して識別されます。リスク担当者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
アサーション	AT_AAM_ASSERTIONS_EXIST_OCCURRENCE AT_AAM_ASSERTIONS_COMPLETENESS AT_AAM_ASSERTIONS_RIGHTS_OBLIGATIONS AT_AAM_ASSERTIONS_VALUATION_ALLOCATION AT_AAM_ASSERTIONS_PRESENTATION_DISCLOSURE AT_AAM_ASSERTIONS_NA		assertions	設定されている値に応じて、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。値の依存性が存在する。最初の 5 つの値は、最後のエントリと組み合わせて発生できない。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

割り当て

リスク マネジメント関連のマークがリスクに付けられている場合のみ、次の割り当てが ARIS Risk & Compliance Manager に転送されます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
リスク マネジメント関連	AT_GRC_RISK_MANAGEMENT_RELEVANT		risk_management_relevant	
評価アクティビティ	AT_GRC_ASSESSMENT_ACTIVITIES		assessment_activities	評価ステップを説明する
評価の頻度	AT_GRC_ASSESSMENT_FREQUENCY	○	assessment_frequency	リスク評価が自動的に生成される頻度を定義する
場合に応じた評価許可	AT_GRC_EVENT_DRIVEN_ASSESSMENTS_ALLOWED		event_driven_allowed	アドホック評価が許可されるかどうかを示す。[評価頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk & Compliance Manager へのインポート時に自動的に「true」に設定される。
実行期限 (単位: 日)	AT_GRC_RISK_ASSESSMENT_DURATION	(○)	assessment-duration	リスク評価の実行期間を指定する [評価の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
リスク評価の開始日	AT_GRC_START_DATE_OF_RISK_ASSESSMENTS	(○)	assessments_startdate	リスク評価の生成が開始される日付を指定する [評価の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
リスク評価の終了日	AT_GRC_END_DATE_OF_RISK_ASSESSMENTS		assessments_enddate	リスク評価の生成が終了される日付を指定する

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

リスク (ARIS) とリスク (ARCM) の割り当て

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
-	-	○	risk_assessment_owner_group	役割への接続線を使用して識別されます。リスク所有者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
-	-	○	risk_reviewer_group	役割への接続線を使用して識別されます。リスク評価者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
-	-		risk_category	リスク カテゴリへの接続線を使用して識別されます。リスク階層要素への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
-	-		organizational_unit	組織ユニットへの接続線を使用して識別されます。組織階層要素への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
-	-		application_system_type	アプリケーション システム タイプへの接続線を使用して識別されます。アプリケーション システム タイプ階層要素への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。




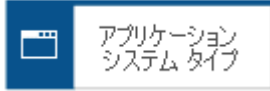

8 方針管理表記規則

8.1 方針の定義の作成

マスター データの管理を簡易化するために ARIS で方針の定義をモデル化できます。これには、[ビジネス コントロール図] モデル (MT_BUSY_CONTR_DGM) を使用できます。

8.1.1 オブジェクトと関係

方針管理のフレームワーク内では、次のオブジェクトを [ビジネス コントロール図] モデルで使用できます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
方針	経営方針	OT_POLICY		方針の定義
役割	役割	OT_PERS_TYPE		方針所有者、方針承認者、方針受取人、方針監査人 (選択した役割による)
リスク	リスク	OT_RISK		リスク
アプリケーション システム タイプ	アプリケーション システム タイプ	OT_APPL_SYS_TYPE		アプリケーション システム タイプ
組織ユニット	組織ユニット	OT_ORG_UNIT		組織

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
用語	用語	OT_TECH_TRM		規定

次の接続線を使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
役割	技術的責任を持つ	方針	ユーザー グループを方針の定義に割り当てます。
リスク	減らされる	方針	方針定義とリスクの間に接続線を作成します。
方針	影響する	組織ユニット	方針定義と影響を受ける組織階層要素の間に接続線を作成します。
方針	影響する	用語	方針定義と影響を受ける規定階層要素の間に接続線を作成します。
方針	影響する	アプリケーション システム タイプ	方針定義と影響を受けるアプリケーション システム タイプ階層要素の間に接続線を作成します。

8.1.2 属性

ARIS Risk & Compliance Manager の [方針管理] オブジェクトに対する ARIS の [方針] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	最大 250 文字まで。
説明	AT_DESC	description		
方針タイプ	AT_POLICY_TYPE	policy_type	○	次の 2 つのオプションから選択できます： <ul style="list-style-type: none"> ▪ [確認が必要] (方針が公開された後に確認プロセスが開始されます) ▪ [公開のみ] (方針が公開されるとプロセスは終了します)
確認テキスト	AT_CONFIRMATION_TEXT	confirmation_text		
確認期間 (単位: 日)	AT_CONFIRMATION_DURATION	duration	(○)	方針受取人グループのユーザーが方針を読んで確認できる期間が出力されます。確認期間は、[確認が必要] タイプの方針にのみ関連します。
公開準備期間の開始日	AT_START_DATE_APPROVAL_PERIOD_OWNER	startdate	○	方針所有者の承認期間の開始。
公開準備期間の終了日	AT_END_DATE_APPROVAL_PERIOD_OWNER	enddate	○	方針所有者の承認期間の終了。
承認期間の開始日	AT_START_DATE_APPROVAL_PERIOD_APPROVER	approverstartdate	○	方針承認者の承認期間の開始。承認者に対して承認が生成されます。
承認期間の終了日	AT_END_DATE_APPROVAL_PERIOD_APPROVER	approverenddate	○	方針承認者の承認期間の終了。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
公開期間の開始日	AT_START_DATE_PUBLISHING_PERIOD	publishingstartdate		公開期間の開始日。開始日が設定されていない場合は、公開期間は方針所有者による承認の直後に開始します。
公開期間の終了日	AT_END_DATE_PUBLISHING_PERIOD	publishingenddate	○	公開期間の終了日。
ARCM の同期	AT_AAM_EXPORT_RELEVANT	-		この属性は、方針の定義を ARIS Risk & Compliance Manager と同期するかどうかを指定します。
タイトル 1	AT_TITL1	文書: <ul style="list-style-type: none"> ▪ 名前 ▪ タイトル 		リンクした文書を示します。
タイトル 2	AT_TITL2			
タイトル 3	AT_TITL3			
タイトル 4	AT_TITL4			
リンク 1	AT_EXT_1	文書: <ul style="list-style-type: none"> ▪ リンクを開いてください 		リンクした文書を示します。
リンク 2	AT_EXT_2			
リンク 3	AT_EXT_3			
リンク 4	AT_LINK			

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
ARIS 文書格納タイトル 1 ARIS 文書格納タイトル 2 ARIS 文書格納タイトル 3 ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL1 AT_ADS_TITL2 AT_ADS_TITL3 AT_ADS_TITL4	文書: ▪ 名前 ▪ タイトル		リンクした文書を示します。
ARIS 文書格納リンク 1 ARIS 文書格納リンク 2 ARIS 文書格納リンク 3 ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_1 AT_ADS_LINK_2 AT_ADS_LINK_3 AT_ADS_LINK_4	文書: ▪ リンクを開いてください		リンクした文書を示します。
		owner_group	○	役割への接続線を使用して識別されます。方針所有者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

ARIS ARCHITECT 9.5 の方針オブジェクトのその他の属性 (評価属性グループ)

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
評価関係	AT_REVIEW_RELEVANT	reviewRelevant		方針に評価関係としてマークを付けます。
評価クティビティ	AT_REVIEW_ACTIVITY	activities		評価時に実行されるアクティビティを説明します。
評価の頻度	AT_REVIEW_FREQUENCY	frequency	(○)	<p>方針の評価を実行するインターバルが出力されます。 使用できるオプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 単発 ▪ 日次 ▪ 週次 ▪ 月次 ▪ 四半期 ▪ 半期 ▪ 年次 ▪ 隔年 ▪ なし (イベント駆動のみ) <p>方針に評価関係としてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。</p>
イベント駆動の評価許可	AT_EVENT_DRIVEN_REVIEW_ALLOWED	event_driven_allowed		方針にアドホック評価が許可されるかどうか出力されます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
評価実行期限 (単位: 日)	AT_REVIEW_EXECUTION_TIME_LIMIT	duration	(○)	方針所有者が評価を処理するために使用できる日数が出力されます。評価期間は評価の終了日で指定され、この日付までに評価を終了する必要があります。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。[評価頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
方針評価の開始日	AT_START_DATE_OF_POLICY_REVIEWS	startdate	(○)	方針評価を生成する最初の日付が出力されます。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。[評価頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
方針評価の終了日	AT_END_DATE_OF_POLICY_REVIEWS	enddate		方針評価を生成する最後の日付が出力されます。
統制期間の長さ	AT_AAM_TESTDEF_CTRL_PERIOD	control_period		方針評価が関連付けられている期間が出力されます。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、このフィールドに入力することをお勧めしていますが、必須ではありません。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

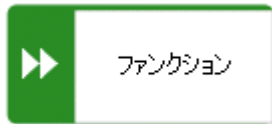

8.1.3 プロセス モデル

プロセス組織への接続線を作成するために、方針を次のプロセス モデルでモデル化できます。

モデル タイプ番号	モデル名
12	付加価値連鎖図
13	EPC
14	ファンクション割当図
18	PCD
50	EPC (マテリアル フロー)
51	PCD (マテリアル フロー)
134	EPC (列表示)
140	EPC (行表示)
154	EPC (テーブル表示)
173	EPC (水平テーブル表示)

8.1.3.1 オブジェクト、関係、および属性

プロセス モデルでは次のオブジェクトを使用できます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
ファンクション	(プロセス モデルによる)	OT_FUNC		プロセス
方針	経営方針	OT_POLICY		方針の定義

次の接続線を使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
方針	影響する	ファンクション	方針と影響を受けるプロセス階層要素の間に接続線を作成します。

8.1.4 ビジネス ルール アーキテクチャ図

方針間の階層をモデル化するために、ARIS Architect 9.5 の次の接続線を [ビジネス ルール アーキテクチャ図] モデルで使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
方針	包含する	方針	方針間の階層を表します

9 規制変更管理表記規則

9.1 規定階層を作成して、規制変更管理データを指定

規定階層は、[用語] オブジェクト (OT_TECH_TRM) を使用して、ARIS Architect の用語モデル (MT_TECH_TRM_MDL) でモデル化されます。ARIS Risk & Compliance Manager の [階層] オブジェクトに対する ARIS の [用語] オブジェクトには、一般的に次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	
		isroot		最上位階層要素に対してのみ「true」
概要説明	AT_SHORT_DESC	hnumber		
		type		規定階層 (値 2)
説明/定義	AT_DESC	description		
		status	○	アクティブの場合、ステータスは「true」
サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT	signoff		規制変更管理には関係しない
モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK	modellink		
		modelguid		用語のオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できる用語モデルが選択されます。
		model_name		モデル名 (上記参照)
オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK	objectlink		

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
オブジェクトの GUID		objectguid		
		children		下位階層要素
		so_owner		関連するサインオフ所有者グループ
		owner_group		関連する階層所有者グループ
		tester		この階層タイプには関係なし

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

規制変更管理を使用するために、[規制変更管理] グループで次の属性も指定できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
評価関係	AT_REVIEW_RELEVANT	reviewRelevant		規定に評価に関係するものとしてマークを付けます。これによって、ここで設定する属性と、「階層所有者」の役割を持つ 1 つのグループの割り当てが必須になります。
評価クティビティ	AT_REVIEW_ACTIVITY	activities		評価時に実行されるアクティビティを説明します。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
評価の頻度	AT_REVIEW_FREQUENCY	frequency	(○)	<p>評価を実行するインターバルが示されます。使用できるオプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 単発 ▪ 日次 ▪ 週次 ▪ 月次 ▪ 四半期 ▪ 半期 ▪ 年次 ▪ 隔年 ▪ なし (イベント駆動のみ) <p>方針に評価に関係するものとしてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。</p>
イベント駆動の評価許可	AT_EVENT_DRIVEN_REVIEW_ALLOWED	event_driven_allowed		<p>規定にアドホック評価が許可されるかどうか出力されます。</p>
評価実行期限 (単位: 日)	AT_REVIEW_EXECUTION_TIME_LIMIT	duration	(○)	<p>階層所有者が評価を処理するために使用できる日数が出力されます。方針に評価に関係するものとしてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。</p>
評価の開始日	AT_REVIEW_START_DATE	startdate	(○)	<p>評価を生成する最初の日付が出力されます。方針に評価に関係するものとしてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。</p>
評価の終了日	AT_REVIEW_END_DATE	enddate		<p>評価を生成する最後の日付が出力されます。</p>

*M 列では属性が必須項目であるかどうか示されます。

9.2 役割と用語の関係

階層所有者グループ (OT_PERS_TYPE) と規定 (OT_TECH_TRM) 間の責任を割り当てるには、ファンクション割当図 (MT_FUNC_ALLOC_DGM) を次の接続線とあわせて使用します。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
役割	所有者である	用語	(階層所有者の役割を持つ) ユーザー グループを規定に割当てます。

10 リスク ベースの検査管理の表記規則

10.1 リスクおよびプロセスの識別

10.1.1 レベル 3 でのプロセスおよびリスク モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)

EPC を使用して、企業のプロセスを記述することができます。この EPC は、実行される活動の論理的および時系列的な流れに基づいています。さらに、一連のファンクションおよびその結果としてのイベントも使用されます。このような簡略化したプロセスに、追加情報を含むほかのオブジェクト（組織ユニット、役職、役割、アプリケーション システムなど）を補足することができます。このため、たとえば [発生する] 接続線を持つリスクは、EPC のファンクションに直接接続できます。

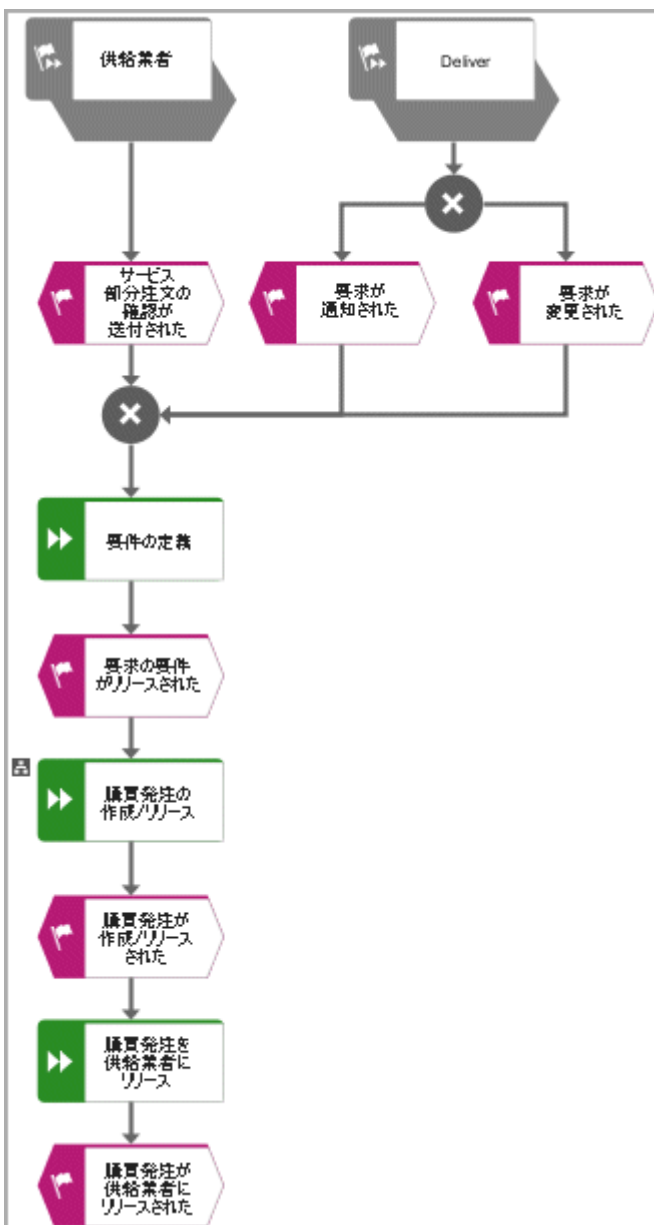


図 16: レベル 3 - イベント駆動プロセス連鎖図

次のモデル タイプは、EPC でオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション	EPC
ファンクション	ファンクション割当図
リスク	EPC
リスク	ビジネス コントロール図

レベル 3 - ファンクション割当図 (FAD)

EPC は、簡略化した EPC (つまり、組織ユニット、役職およびアプリケーション システムを含めない) としてモデル化することもできます。こうした追加オブジェクトとファンクションとの関係は、ファンクション割当図でモデル化され、ファンクションにアサインされます。ファンクション割当図のオブジェクトとシンボル タイプを使用することによって、簡略 EPC を拡張 EPC にすることができます。そのオブジェクトとシンボル タイプは次のとおりです。

- ファンクション
- 役職
- 組織ユニット
- 組織ユニット タイプ
- グループ
- 役割
- 内部要員
- アプリケーション システム
- アプリケーション システム タイプ
- 情報媒体 (ファイル、文書)
- リスク

10.2 リスクの分析、および統制と検査の展開

プロセスで識別されたリスクに関して、統制および検査の定義は、ビジネス コントロール図で行うことができます。また、どのリスクがどの貸借対照表項目に影響を及ぼすかといった、企業階層への影響についても、記録することができます。

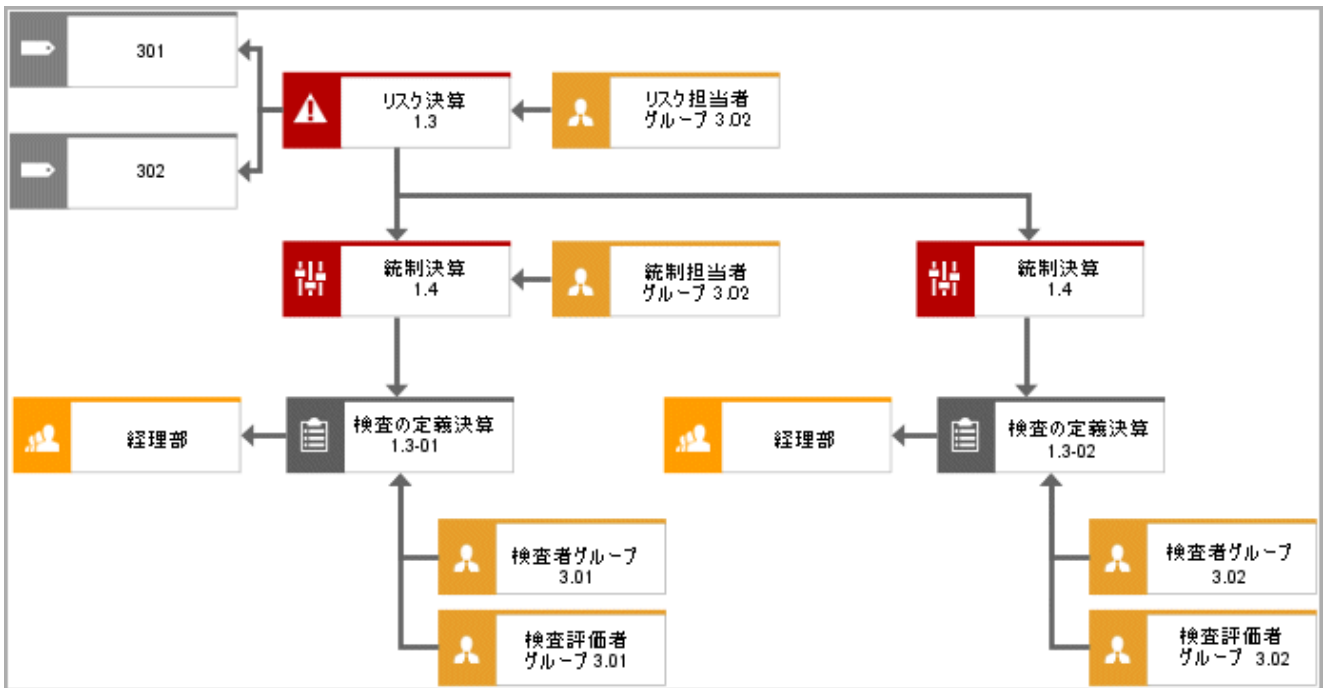


図 17: ビジネス コントロール図の構造

リスク担当者グループ、検査担当者グループ、および統制担当者グループの割り当てはオプションです。

リスク オブジェクトと関連オブジェクトの関係

次の接続線がビジネス コントロール図のオブジェクトで使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
リスク	影響する	用語	この接続線によって、規定への関係が作成される。
リスク	技術的責任を持つ	役割	この接続線によって、リスク担当者への関係が作成される。
リスク	減らされる	統制	この接続線によって、統制への関係が作成される。
統制	監視される	検査の定義	この接続線によって、検査の定義への関係が作成される。
統制	技術的責任を持つ	役割	この接続線によって、統制担当者への関係が作成される。
検査の定義	影響する	組織ユニット	この接続線によって、関係する組織ユニットへの関係が作成される。
検査の定義	割り当てられている	役割	この接続線によって、検査者、検査評価者および検査担当者への関係が作成される。

10.2.1 リスク

リスクは、[リスク] オブジェクト (OT_RISK) を使用して ARIS Architect でモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager では、[ARCM の同期] 属性が設定されているリスクごとにリスクが作成されます。

リスク (ARIS) とリスク (ARCM) の割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [リスク] オブジェクトに対する ARIS の [リスク] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
リスク ID	AT_AAM_RISK_ID		risk_id	
リスク タイプ	AT_AAM_RISK_TYPE_FINANCIAL_REPORT AT_AAM_RISK_TYPE_COMPLIANCE AT_AAM_RISK_TYPE_OPERATIONS AT_AAM_RISK_TYPE_STRATEGIC		risktype	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
説明/定義	AT_DESC		description	
			risk_function	ファンクションへの接続線を使用して識別されます。プロセス階層要素への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
			financial_statement	用語への接続線を使用して識別されます。規定階層要素への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
影響	AT_AAM_IMPACT		impact	
確率	AT_AAM_PROBABILITY		probability	
リスク カタログ 1	AT_AAM_RISK_CATALOG_1		risk_catalog1	
リスク カタログ 2	AT_AAM_RISK_CATALOG_2		risk_catalog2	
タイトル 1	AT_TITL1		文書: <ul style="list-style-type: none"> ▪ 名前 ▪ タイトル 	リンクした文書を示します。
タイトル 2	AT_TITL2			
タイトル 3	AT_TITL3			
タイトル 4	AT_TITL4			
リンク 1	AT_EXT_1		文書: <ul style="list-style-type: none"> ▪ リンクを開いてください 	リンクした文書を示します。
リンク 2	AT_EXT_2			
リンク 3	AT_EXT_3			
リンク 4	AT_LINK			
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		文書: <ul style="list-style-type: none"> ▪ 名前 ▪ タイトル 	リンクした文書を示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2			
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3			
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4			

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
ARIS 文書格納リンク 1 ARIS 文書格納リンク 2 ARIS 文書格納リンク 3 ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_1 AT_ADS_LINK_2 AT_ADS_LINK_3 AT_ADS_LINK_4		文書: ▪ リンクを開いてください	リンクした文書を示します。
			controls	統制への接続線を使用して識別されます。統制への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
			manager_group	役割への接続線を使用して識別されます。リスク担当者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
アサーション	AT_AAM_ASSERTIONS_EXIST_OCCURRENCE AT_AAM_ASSERTIONS_COMPLETENESS AT_AAM_ASSERTIONS_RIGHTS_OBLIGATIONS AT_AAM_ASSERTIONS_VALUATION_ALLOCATION AT_AAM_ASSERTIONS_PRESENTATION_DISCLOSURE AT_AAM_ASSERTIONS_NA		assertions	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。値の依存性が存在する。最初の 5 つの値は、最後のエントリと組み合わせ発生できない。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

10.2.2 統制

統制は、[ファンクション] オブジェクト (OT_FUNC) とそのデフォルト シンボル (ST_CONTR) を使用して ARIS でモデル化します。[ARCM の同期] のリスクでモデル化される統制のみが ARIS Risk & Compliance Manager へのエクスポートに関連しています。

ファンクション (統制) (ARIS) と統制 (ARCM)

ARIS Risk & Compliance Manager の [統制] オブジェクトに対する ARIS の [ファンクション (統制)] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
統制 ID	AT_AAM_CTRL_ID		control_id	
			manager_group	役割への接続線を使用して識別されます。統制担当者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
統制の頻度	AT_AAM_CTRL_FREQUENCY		control_frequency	
統制の実行	AT_AAM_CTRL_EXECUTION_MANUAL AT_AAM_CTRL_EXECUTION_IT		control_execution	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
統制の効果	AT_AAM_CTRL_EFFECT		control_effect	

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
内部統制の構成要素	AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ENVIRONMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_RISK_ASSESSMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ACTIVITIES AT_AAM_COSO_COMPONENT_INFO_COMMUNICATION AT_AAM_COSO_COMPONENT_MONITORING		control_type	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
統制活動	AT_AAM_CTRL_ACTIVITY		controls	
			testdefinitions	検査の定義への接続線を使用して識別されま す。検査の定義への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存さ れます。
統制の目的	AT_AAM_CTRL_OBJECTIVE		control_objective	
キー コントロール	AT_AAM_KEY_CTRL		key_control	

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

10.2.3 検査の定義

検査の定義は、[検査の定義] オブジェクト (OT_TEST_DEFINITION) を使用して ARIS でモデル化します。[ARCM の同期] 属性が設定されている統制でモデル化される検査の定義のみが ARIS Risk & Compliance Manager との同期に関連します。

検査定義 (ARIS) と検査の定義 (ARCM) の割り当て

ARIS Risk & Compliance Manager の [検査定義] オブジェクトに対する ARIS の [検査定義] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
名前	AT_NAME	○	name	
検査活動	AT_AAM_TEST_ACTIVITY		testingsteps	
検査の種類	AT_AAM_TEST_NATURE_INQUIRY AT_AAM_TEST_NATURE_OBSERVATION AT_AAM_TEST_NATURE_EXAMINATION AT_AAM_TEST_NATURE_REPERFORMANCE		test_nature	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
検査タイプ	AT_AAM_TEST_TYPE_DESIGN AT_AAM_TEST_TYPE_EFFECTIVENESS	○	test_type	値が「true」の場合、ARIS Risk & Compliance Manager で列挙が設定される。
検査の規模	AT_AAM_TEST_SCOPE		testextend	
		○	owner_group	役割への接続線を使用して識別されます。検査者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
イベント駆動のテスト ケース許可	AT_EVENT_DRIVEN_TESTS_ALLOWED		event_driven_allowed	「true」が設定されている場合は、検査の定義は自動の統制検査にのみ使用されます。同時に、[検査の頻度] 属性は [場合に応じる] に設定されている必要があります。

ARIS 属性	API 名	M*	ARCM 属性	注意
検査の頻度	AT_AAM_TEST_FREQUENCY	○	testfrequency	
実行期限 (単位: 日)	AT_AAM_TEST_DURATION	(○)	testduration	[検査の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
検査の定義の開始日	AT_AAM_TESTDEF_START_DATE	(○)	testdefinition_startdate	[検査の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
検査の定義の終了日	AT_AAM_TESTDEF_END_DATE		testdefinition_enddate	
統制期間の長さ	AT_AAM_TESTDEF_CTRL_PERIOD	○	control_period	
オフセット (単位: 日)	AT_AAM_TESTDEF_OFFSET		offset	
		○	reviewer_group	[検査評価者] の役割を使用している役割への接続線を使用して識別されます。検査評価者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
			manager_group	[検査担当者] の役割を使用している役割への接続線を使用して識別されます。検査担当者への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
		○	effected_orgunit	組織ユニット、グループ、役職、または場所への接続線を使用して識別されます。関連する組織ユニットへの対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
フォローアップ使用可	AT_AAM_TESTDEF_FOLLOWUP		isfollowup	

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

10.3 一般モデル作成規則

モデル化されたビジネス コントロール図の中で、これらのリスクが一意である必要があります。1 つのリスクは複数の統制を持つことができますが、1 つの統制を持つことができるリスクは 1 つのみです。リスクは、2 つ以上のビジネス コントロール図でオカレンスを持つことができません。また、1 つのファンクションとのみ接続できます。

統制は、モデル化されたビジネス コントロール図内で一意である必要があります、2 つ以上のビジネス コントロール図でオカレンスを持つことはできません。統制は、[ARCM の同期] 属性が設定されている 1 つのリスクに接続できます。

検査の定義は、モデル化されたビジネス コントロール図内で一意である必要があります、2 つ以上のビジネス コントロール図でオカレンスを持つことはできません。各検査の定義は、[ARCM の同期] 属性が設定されているリスクに接続されている 1 つの統制に接続できます。

10.3.1 自動の統制検査

イベントを有効にすることによって自動の統制検査を実行するには、[イベント駆動のテスト ケース許可] 属性を「true」に設定する必要があります。自動の統制検査は、外部イベントなどによりアドホックで実行されます。

さらに、年内にシステムによってテスト ケースが生成されないように、[場合に応じる] 属性値を [検査の頻度] 属性に選択する必要があります。この頻度は、アドホックの検査を処理するためにのみ使用されます。

11 サインオフ管理の表記規則

サインオフ プロセスは評価プロセスです。評価プロセスは複数のレベルに渡るプロセスであり、さまざまな階層レベルに渡って各階層要素を評価するために使用されます。評価は通常、統制期間内に実行されたテスト ケースの結果に基づいています。これらのテスト ケースは、[リスク]、[統制]、および [検査の定義] の基礎要素に基づいています。

サインオフ プロセス内で、評価は最下位から最上位の階層レベルまで実行されます。上位レベルの階層要素の評価は、下位の階層要素がすべて評価されたあとでのみ実行されます。サインオフ所有者がサインオフの下位階層要素に割り当てられていない場合、これらの下位階層要素は、システムにより自動的にリリースされ処理されます。

11.1 プロセス階層を使用するサインオフ

サインオフに関して、ファンクションとサインオフ所有者グループ（役割）間の関係は、付加価値連鎖図でモデル化されます。次の図に例を示します。



図 18: ファンクションの割り当て - サインオフ所有者グループ

[決定する] 接続線によって、サインオフ所有者グループ（ユーザー グループ）とプロセス階層要素間の関係が作成されます。

11.2 規定階層を使用するサインオフ

規定階層を使用するサインオフに関しては、規定とサインオフ所有者グループとの関係がファンクション割当図でモデル化されます。[所有者である] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。

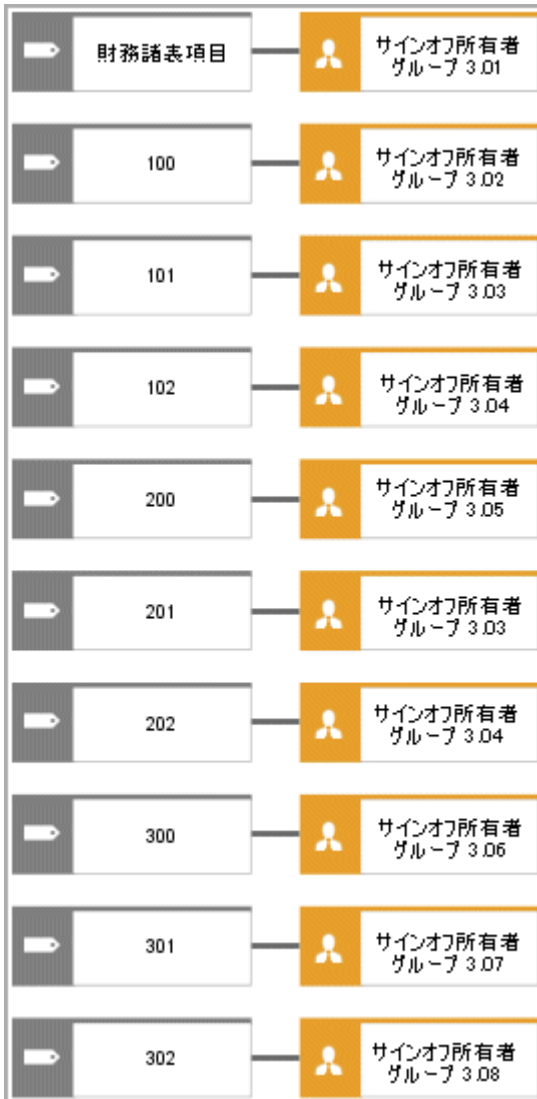


図 19: 規定 - サインオフ所有者グループの割り当て

11.3 検査者階層を使用するサインオフ

検査者階層を使用するサインオフに関しては、組織ユニットとサインオフ所有者グループの関係が検査者階層の組織図でモデル化されます。[属する] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。

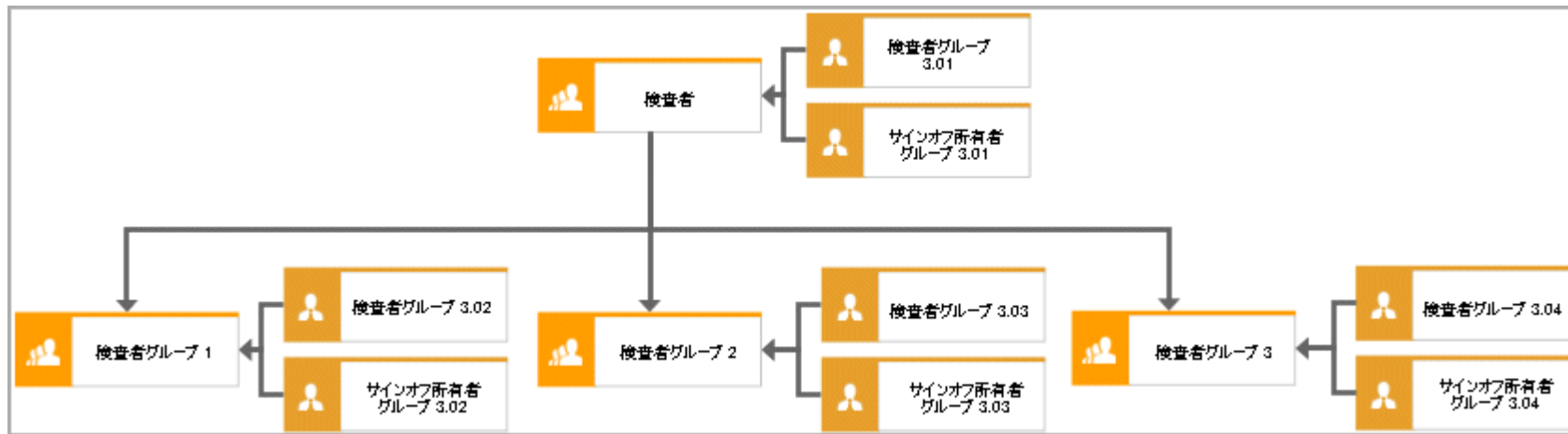


図 20: 組織ユニット (検査者) - サインオフ所有者グループの割り当て

11.4 組織階層を使用するサインオフ

サインオフに関しては、組織ユニットとサインオフ所有者グループの関係が企業組織の組織図でモデル化されます。[属する] 接続線によって、ユーザーグループと階層要素間の関係が作成されます。

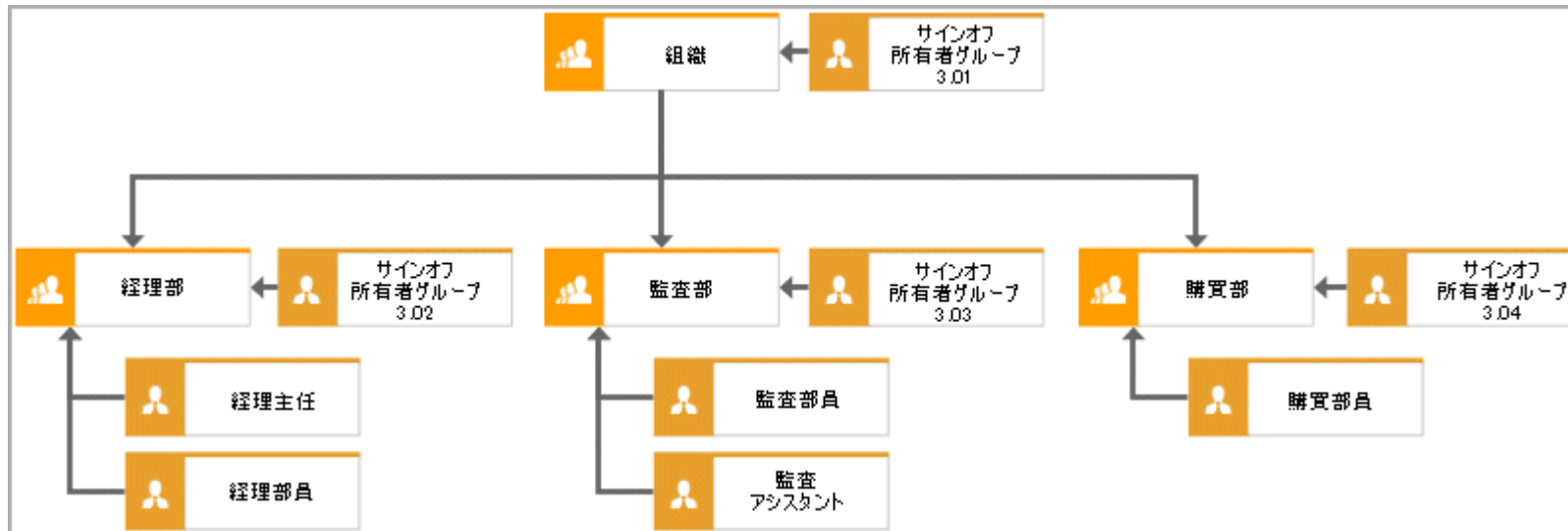


図 21: 組織ユニット (検査者) - サインオフ所有者グループ

12 調査管理表記規則

12.1 質問票テンプレートの作成

マスター データの管理を簡易化するために、ARIS Architect で [質問票テンプレート] をモデル化できます。これには [調査管理] (MT_SURVEY_MGMT) モデルを使用します。次のオブジェクトをモデルで使用できます。

オブジェクトとシンボル

オブジェクト タイプ	API 名	シンボル
質問票テンプレート	OT_SURVEY_QUEST_TMPL	 質問票テンプレート
セクション	OT_SURVEY_SECTION	 セクション
質問	OT_SURVEY_QUESTION	 質問
オプション セット	OT_SURVEY_OPTION_SET	 オプション セット
回答オプション	OT_SURVEY_OPTION	 回答オプション

質問票テンプレートのオブジェクト間の関係は、例で示します。



図 22: 質問票テンプレートのサンプル ([調査管理] モデル)

最高レベルのアイテムは質問票テンプレートです（「プロセス評価の自己評価」）。質問票テンプレートには任意の数のセクションを割り当てることができます。セクションは、任意の数のサブセクションを持つことができます。上の例では、質問票テンプレートには「一般情報」と「経営者」の 2 つのセクションがあります。質問は、質問テンプレートに直接割り当ててはできません。質問はセクションにのみ割り当てることができます。質問は 1 つのセクション内で 1 回しか存在できないことに注意してください。質問の上の図では、「プロセス所有者は誰ですか？」および「プロセスの関与人数」は [一般情報] セクションに割り当てられています。「プロセス所有者は誰ですか？」という質問は、テキスト タイプの自由回答形式の質問です。つまり、この質問の回答にはテキスト ボックスが使用できます。「プロセスの関与人数」という質問は、単一選択の質問タイプです。上の図で示されているように、この質問には 3 つの可能な回答が割り当てられています。ユーザーは、3 つの回答からいずれかを選択してこの質問に回答できます。

可能な回答の組み合わせを頻繁に使用する場合は、これらの回答を 1 つのオプション セットにまとめることができます。上の例では、「管理職は、プロセスの継続的な改善および調整をどのようにして確かなものにしていきますか？」という質問に [最良]、[とても良い]、[良い]、[普通]、[劣っている] のオプション セットが割り当てられています。オプション セットは、[調査管理] タイプの同じモデルか、すべてのオプション セットを組み合わせる別のモデルでモデル化できます。



図 23: オプション セット ([調査管理] モデル)

次の接続線と関係が調査管理のオブジェクト間で使用できます。

質問票テンプレートのオブジェクト関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
質問票テンプレート	含む	セクション	質問票テンプレートは複数のセクションを持つことができます。セクションは、1 つの質問票テンプレートにのみ存在できます。セクションを別の質問表テンプレートで再使用することはできません。
セクション	含む	セクション	セクションには複数のサブセクションを含めることができます。サブセクションは、1 つの上位セクションしか持つことができません。
セクション	含む	質問	セクションには複数の質問を含めることができます。質問はセクション内で 1 回しか存在できません。ただし、異なるセクションで質問を使用することはできます。質問は、別の質問票テンプレートで使用することもできます。
質問	含む	オプション セット	質問にはオプション セットは 1 つのみ割り当てることができます。ただし、オプション セットには複数の質問を割り当てることができます。
質問	持つ	回答オプション	質問には複数の回答を割り当てることができます。回答オプションは、複数の異なる質問に割り当てることができます。
オプション セット	持つ	回答オプション	オプション セットには複数の回答オプションを含めることができます。回答オプションは、複数の異なるオプション セットに割り当てることができます。

12.1.1 回答オプションと質問/セクション間の依存関係の作成

回答オプションと追加の質問/セクション間に依存関係を作成できます。この場合、調査回答者は追加の質問に回答するか、提供した回答に依存する追加のセクションを編集する必要があります。質問タイプが「単一選択」または「複数選択」の場合のみ追加の質問を作成できます。回答オプションで追加の質問とセクションを同時にアクティブ化できます。依存関係は、[調査管理] モデルでモデル化されます。依存関係でサイクルをモデル化しないようにしてください。

例

例：プロセスの継続的な改善および調整を保証するために、マネージャのパフォーマンスをどのように評価しますか？

回答オプション 1: [良い] (回答する追加の質問はありません)

回答オプション 2: [普通] (回答する追加の質問はありません)

回答オプション 3: [劣っている] (追加の質問をアクティブ化します: 何か改善できますか?)

12.1.1.1 オブジェクトと関係

[調査管理] モデルのオブジェクト関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
回答オプション	アクティブにする	質問	回答オプションで 1 つ以上の質問をアクティブ化できます。
回答オプション	アクティブにする	セクション	回答オプションで 1 つ以上のセクションをアクティブ化できます。

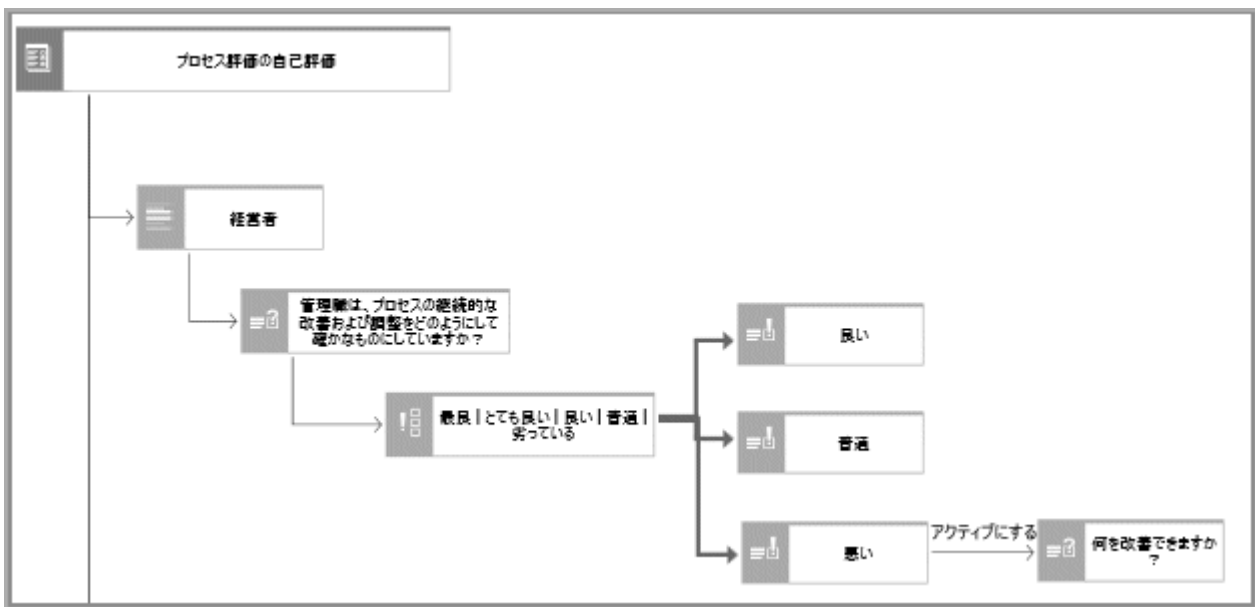


図 24: 回答オプションと質問間の依存関係

12.1.1.2 依存する質問/セクションのアクティブ化

12.1.1.2.1 回答オプションで常に同じ質問/セクションをアクティブ化する

回答オプションは、質問票テンプレートで複数回使用されることがよくあります（回答オプションがオプション セットに属する場合は特に）。たとえば、「劣っている」という回答で常に「何か改善できますか？」という同じ質問をアクティブ化する必要がある場合は、質問をそのオプションに接続する必要があります。セクションにも同様のことが言えます。

例

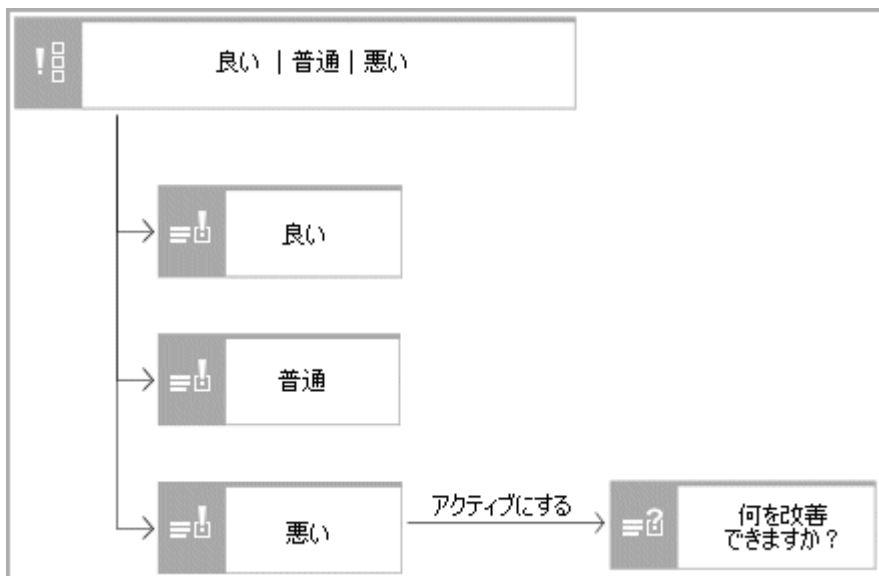


図 25: 回答オプションで常に同じ質問をアクティブ化する

12.1.1.2.2 回答オプションで、特定の質問のコンテキストで異なる質問/セクションをアクティブ化する

たとえば、[劣っている] という回答オプションで、コンテキストによって異なる質問をアクティブ化できます。その場合、[有効なコンテキストである] 接続線を使用して、どのコンテキストでどの依存する質問をアクティブ化するか定義する必要があります。セクションにも同様のことが言えます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
質問	有効なコンテキストである	質問	質問は、特定の質問のコンテキストの回答オプションによってのみアクティブ化されます。
セクション	有効なコンテキストである	質問	セクションは、特定の質問のコンテキストの回答オプションによってのみアクティブ化されます。

例

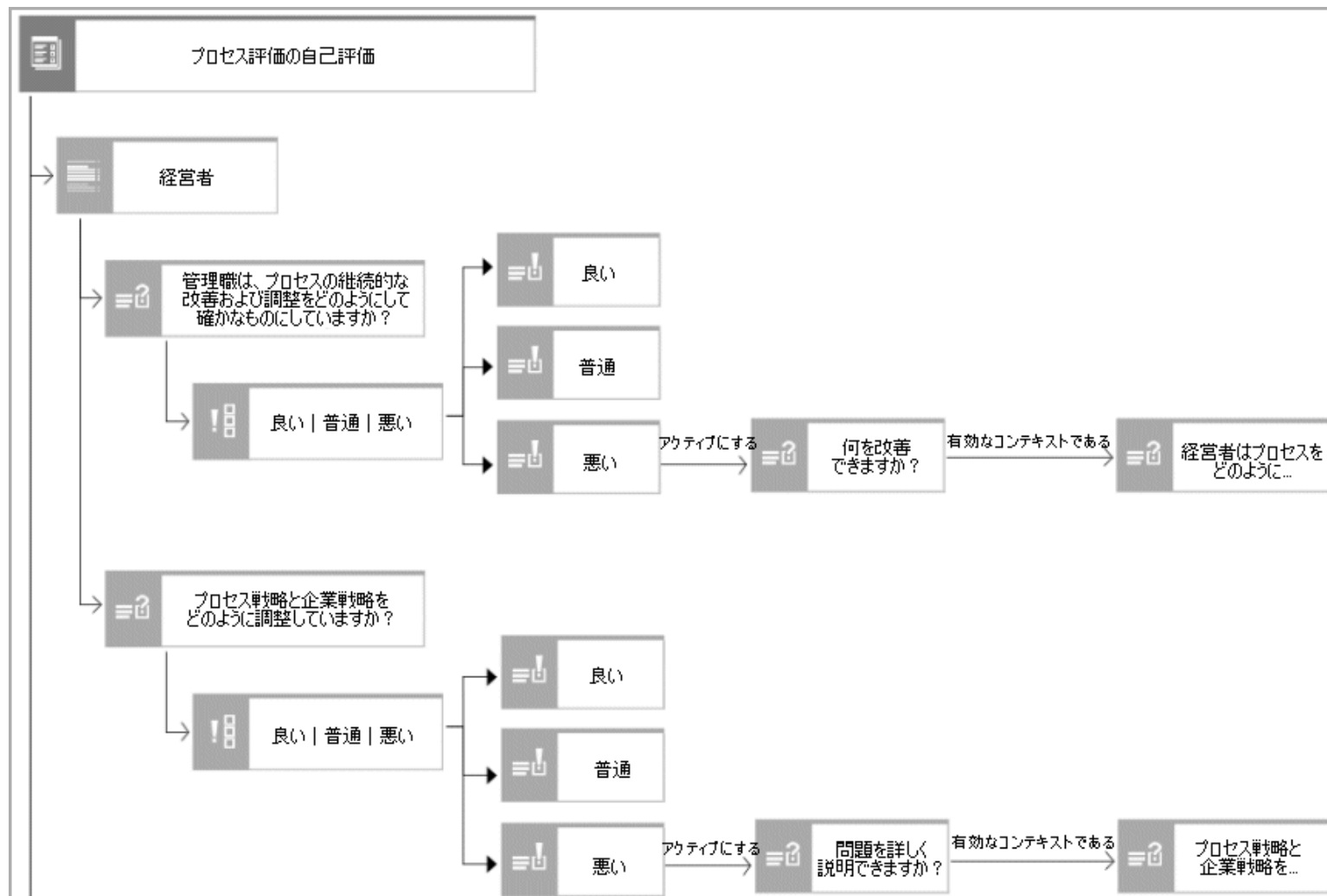


図 26: 回答オプションで異なるコンテキストで異なる質問をアクティブ化する

12.1.1.3 ARIS Risk & Compliance Manager での依存する質問/セクションの位置

質問票テンプレートを ARIS でモデル化すると、質問票テンプレートを ARIS Risk & Compliance Manager に転送できます ([ARCM の同期])。依存する質問/セクションの位置を ARIS Risk & Compliance Manager の質問票テンプレートで定義する方法は 2 つあります。

12.1.1.3.1 有効化する質問の直下の依存する質問/セクション

依存する質問/セクションを、ARIS Risk & Compliance Manager の質問票テンプレートの構造で有効化する質問の下に表示できる場合は、[アクティブにする] 接続線を使用して質問/セクションを ARIS の回答オプションに接続します。

標準のケース

トリガーする回答オプションが ARIS の複数の質問に接続されている場合は、ARIS Risk & Compliance Manager の同期によって、アクティブ化した質問/セクションの対応する数のコピーが生成されます。ARIS Risk & Compliance Manager の質問票テンプレートの構造に、アクティブ化する質問の直下にアクティブ化された質問/セクションの各コピーが表示されます。回答オプションは、アクティブ化する質問の直下に表示される、依存する質問/セクションのみ常にトリガーします。

特殊なケース

複数の回答オプションで同じ依存する質問をトリガーする

1 つの質問の複数の回答オプションで同じ依存する質問をトリガーする場合は、依存する質問は質問の下に 1 回だけ表示されます。

複数の質問で同じ依存するセクションをアクティブ化する

- セクション内の複数の質問で同じ依存するセクションをアクティブ化する場合は、依存するセクションはセクションの下に 1 回だけ表示されます。
- 同じ上位セクションに属する複数のセクションの複数の質問で同じ依存するセクションをアクティブ化する場合は、依存するセクションは上位セクションの下に 1 回だけ表示されます。

複数の質問で同じ依存する質問をアクティブ化する

1 つのセクションの複数の質問で同じ依存する質問をアクティブ化する場合は、依存する質問はセクション内に 1 回だけ表示されます。

12.1.1.3.2 定義した位置の依存する質問/セクション

依存する質問/セクションの位置を ARIS Risk & Compliance Manager の質問票テンプレートの構造に指定する場合は、これを ARIS で明示的にモデル化する必要があります。その場合、[アクティブにする] 接続線を使用して質問/セクションを回答オプションに接続します。また、[含む] 接続線を使用して、セクション/質問票テンプレートに質問/セクションの位置を指定します。

(依存する質問/セクションをアクティブ化する) 回答オプションが ARIS で複数の質問に接続されている場合は、ARIS Risk & Compliance Manager との同期により質問/セクションが 1 つだけ生成されます。ARIS Risk & Compliance Manager の質問票テンプレートの構造で、依存する質問/セクションは ARIS モデルと同じ位置に表示されます。各回答オプションで同じ依存する質問/セクションをアクティブ化します。

例

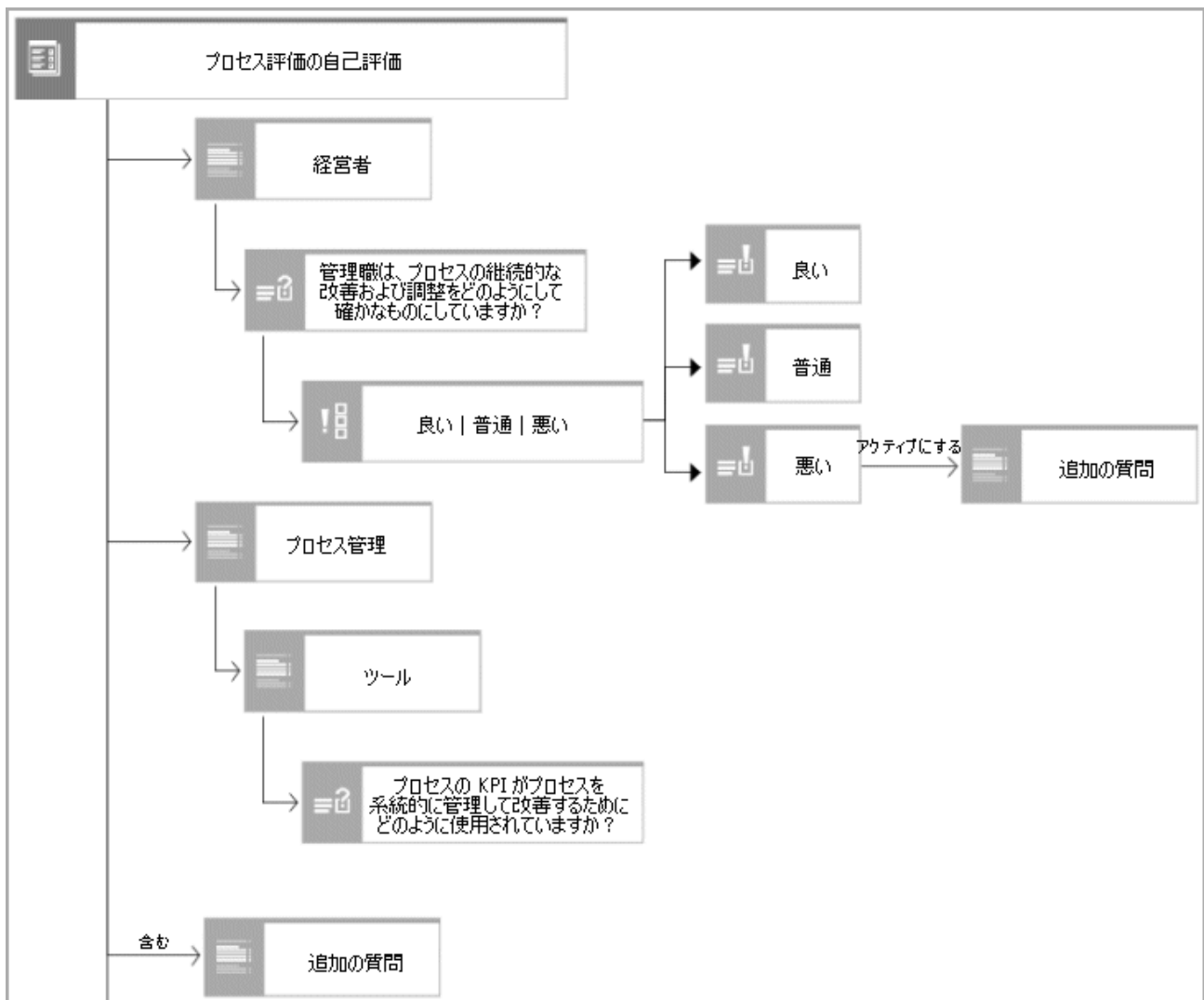


図 27: 構造の定義された位置のセクション

12.1.2 質問票テンプレート オブジェクト

質問票テンプレートは、[質問票テンプレート] オブジェクト (OT_SURVEY_QUEST_TMPL) を使用して ARIS Architect でモデル化します。質問票テンプレートは、[ARCM の同期] 属性が設定されている質問票テンプレートごとに ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。ARIS Risk & Compliance Manager の [質問表テンプレート] オブジェクトに対する ARIS の [質問表テンプレート] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	質問票テンプレートの名前は最大 250 文字に制限されています。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
セクション	-	sections	-	質問票テンプレートと割り当てられたセクションの間の接続線を使用して決定『86 ページ』されます。セクションへの対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
タイトル 1	AT_TITL1	文書:	-	リンクした文書を示します。
タイトル 2	AT_TITL2	▪ 名前		
タイトル 3	AT_TITL3	▪ タイトル		
タイトル 4	AT_TITL4			
リンク 1	AT_EXT_1	文書:	-	リンクした文書を示します。
リンク 2	AT_EXT_2	▪ リンクを開いて		
リンク 3	AT_EXT_3	ください		
リンク 4	AT_LINK			

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1	文書: <ul style="list-style-type: none"> ▪ 名前 ▪ タイトル 	-	リンクした文書を示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2			
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3			
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4			
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1	文書: <ul style="list-style-type: none"> ▪ リンクを開いてください 	-	リンクした文書を示します。
ARIS 文書格納リンク 2				
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_2			
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_3 AT_ADS_LINK_4			
スコア (目標)	AT_SCORE_TARGET	targetScore	-	スコア (目標) は、特定の質問票に関して達成すべき点数を指定します。
ARCM の同期	AT_AAM_EXPORT_RELEVANT	-	-	この属性は、質問票テンプレートを ARIS Risk & Compliance Manager と同期するかどうかを指定します。
段落番号の自動設定	AT_AUTOMATIC_NUMBERING	autoNumbering	-	ARIS Risk & Compliance Manager の質問票のすべてのセクションと質問に対して、段落番号の自動設定をアクティブ ([はい]) または非アクティブ ([いいえ]) にします。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

12.1.3 セクション オブジェクト

セクションは、[セクション] オブジェクト (OT_SURVEY_SECTION) を使用して ARIS Architect でモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager の [セクション] オブジェクトに対する ARIS の [セクション] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	セクションの名前は最大 250 文字に制限されています。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
サブセクション	-	subSections	-	セクションとサブセクションの間の接続線を使用して決定『86 ページ』されます。サブセクションへの対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
質問	-	questions	-	セクションと割り当てられた質問の間の接続線を使用して決定『86 ページ』されます。質問への対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
スコア (目標)	AT_SCORE_TARGET	targetScore	-	スコア (目標) は、特定のセクションに関して達成すべき点数を指定します。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

12.1.4 質問オブジェクト

質問は、[質問] オブジェクト (OT_SURVEY_QUESTION) を使用して ARIS Architect でモデル化します。オプション セットと回答オプションは、質問に同時に割り当ててはできません。ARIS Risk & Compliance Manager の [質問] オブジェクトに対する ARIS の [質問] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
説明/定義	AT_DESC	question_text	○	[説明/定義] ARIS 属性には、質問テキストが含まれます。
注釈/例	AT_REM	remark	-	[注釈/例] ARIS 属性には、質問テキストに関する注釈や説明を含めることができます。
オプション セット	-	optionSet	-/○	質問と割り当てられたオプション セットの間の接続線を使用して決定『86 ページ』されます。オプション セットへの対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
回答オプション	-	options	-/○	質問と回答オプションの間の接続線を使用して決定されます。回答オプションへの対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。
メモの使用許可	AT_ANNOTATIONS_ALLOWED	Notes allowed	-	調査回答者が質問に関してメモを追加できるかどうかを指定します (デフォルト設定: False = いいえ)。
質問タイプ	AT_QUESTION_TYPE	type	○	質問タイプは質問の種類を指定します (たとえば、単一選択、テキストなど)。
評価者による評価	AT_REVIEWER_RATES_ANSWER	reviewerRates Answer	-	調査評価者が調査回答者の回答を評価して、スコアを割り当てることができるかどうかを指定します (デフォルト設定: False = いいえ)。
任意回答	AT_OPTIONAL_QUESTION	optional Question	-	質問がオプションであるかどうかを指定します (デフォルト設定: False = いいえ)。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
タイトル 1	AT_TITL1	文書:	-	リンクした文書を示します。
タイトル 2	AT_TITL2	▪ 名前		
タイトル 3	AT_TITL3	▪ タイトル		
タイトル 4	AT_TITL4			
リンク 1	AT_EXT_1	文書:	-	リンクした文書を示します。
リンク 2	AT_EXT_2	▪ リンクを開いて		
リンク 3	AT_EXT_3	ください		
リンク 4	AT_LINK			
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1	文書:	-	リンクした文書を示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2	▪ 名前		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3	▪ タイトル		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4			

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1	文書: ▪ リンクを開いて ください	-	リンクした文書を示します。
ARIS 文書格納リンク 2				
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_2			
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_3			
	AT_ADS_LINK_4			

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

12.1.5 オプション セット オブジェクト

オプション セットは、[オプション セット] オブジェクト (OT_SURVEY_OPTION_SET) を使用して ARIS Architect でモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager の [オプション セット] オブジェクトに対する ARIS の [オプション セット] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	オプション セットの名前は最大 250 文字に制限されています。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
回答オプション	-	options	○	オプション セットと回答オプションの間の接続線を使用して決定されます。回答オプションへの対応するリンクは ARIS Risk & Compliance Manager に保存されません。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

12.1.6 回答オプション オブジェクト

回答オプションは、[回答オプション] オブジェクト (OT_SURVEY_OPTION) を使用して ARIS Architect でモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager の [回答オプション] オブジェクトに対する ARIS の [回答オプション] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	回答オプションの名前は最大 250 文字に制限されています。
回答値	AT_OPTION_VALUE	optionValue	-	回答値はスコアの計算に使用されます (対応する回答が選択された場合)。
説明/定義	AT_DESC	description	-	

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

12.1.7 質問タイプ

回答の基本プロパティは、質問タイプです。質問タイプは、質問にどのように回答できるか、またはしなければならないかを指定します。さらに、質問タイプは、質問がオプション セットまたは回答オプションに割り当てられるかについて影響を与えます。

以下の質問タイプを使用できます。

- **単一選択**
単一選択の質問タイプは、調査回答者は、使用できる回答オプションから 1 つの回答のみを選択できることを指定します。この質問タイプを選択した場合は、質問はオプション セットまたは回答オプションに割り当てられる必要があります。
- **複数選択**
複数選択の質問タイプは、調査回答者は、使用できる回答オプションから任意の数の回答を選択できることを指定します。この質問タイプを選択した場合は、質問はオプション セットまたは回答オプションに割り当てられる必要があります。
- **テキスト**
テキスト質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に任意のテキストを入力できることを指定します。
- **数値（整数）**
数値（整数）質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に整数を入力しなければならないことを指定します。
- **数値（浮動小数点）**
数値（浮動小数点）質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に浮動小数点値を入力しなければならないことを指定します。
- **日付**
日付質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に日付を入力しなければならないことを指定します。
- **日付範囲**
日付範囲質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に日付範囲（～から～まで）を入力しなければならないことを指定します。

これらの質問タイプはすべて排他的です。つまり、質問は 1 つの質問タイプしか持つことができません。

12.1.8 評価者による評価

[評価者による評価] 属性が設定されている場合は、調査評価者は調査回答者の回答を評価できます。ただし、これは質問が単一選択または複数選択タイプでない場合のみ可能です。属性が設定されると、質問はオプション セットまたは回答オプションに割り当てられる必要があります。調査回答者が質問に回答したら、調査評価者は回答オプションから適合する回答を選択できます。これを実行する際には、調査評価者は質問に回答するのではなく、調査回答者の回答を評価します。この評価により、対応する質問のスコアが決定します。

12.2 質問票テンプレート割り当て


[質問票テンプレート割り当て] タイプのモデルには、[調査管理] タイプのモデルを割り当てることができます。このモデルは、調査に関係する領域、オブジェクト、および階層に関する情報を表します。調査に関わる要素を使用して、[調査タスク] タイプのオブジェクトをモデル化することもできます。[ARCM の同期] 属性が設定されている質問票テンプレートに割り当てられた調査タスクは、その関連情報とともに ARIS Risk & Compliance Manager と同期されます。質問票テンプレートでモデル化された情報は、インポートでは無視されます。

[質問票テンプレート割り当て] モデルでは、次のオブジェクトを [関係する] 接続線を使用して [質問票テンプレート] タイプのオブジェクトに割り当てることができます。


オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
タスク	プロジェクト/タスク	OT_FUNC_INST	 プロジェクト  タスク	監査テンプレート/ 監査手順
リスク カテゴリ	リスク カテゴリ	OT_RISK_CATEGORY	 リスク カテゴリ	リスク カテゴリ
アプリケーション システム タイプ	アプリケーション システム タイプ	OT_APPL_SYS_TYPE	 アプリケーション システム タイプ	アプリケーション システム タイプ
ファンクション	ファンクション/統制	OT_FUNC	 ファンクション  統制	プロセス/統制
組織ユニット	組織ユニット	OT_ORG_UNIT	 組織ユニット	組織
用語	用語	OT_TECH_TRM	 用語	規定
方針	経営方針	OT_POLICY	 経営方針	方針の定義

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
リスク	リスク	OT_RISK	 リスク	リスク
検査の定義	検査の定義	OT_TEST_DEFINITION	 検査の定義	検査の定義

[質問票テンプレート割り当て] モデルでは、次のオブジェクトを [開始された] 接続線を使用して [質問票テンプレート] タイプのオブジェクトに割り当てることができます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
調査タスク	調査タスク	OT_SURVEYTASK	 調査タスク 1.1	調査タスク

調査を担当する調査担当者は、[割り当て] 接続線を使用して質問票テンプレートに割り当てられます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
役割	役割	OT_PERS_TYPE	 役割	調査担当者グループ

12.2.1 質問票テンプレート割り当てモデル内の質問票テンプレートのオブジェクト関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
質問票テンプレート	影響する	監査テンプレート/ 監査手順	複数の監査テンプレートまたは監査手順、またはその両方を質問票テンプレートに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager には転送されません。
質問票テンプレート	影響する	方針	複数の方針定義を質問票テンプレートに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager には転送されません。
質問票テンプレート	影響する	リスク カテゴリ	複数のリスク カテゴリを質問票テンプレートに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager には転送されません。
質問票テンプレート	影響する	用語/規定	複数の規定を質問票テンプレートに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager には転送されません。
質問票テンプレート	影響する	ファンクション/プロセス	複数のプロセスを質問票テンプレートに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager には転送されません。
質問票テンプレート	影響する	アプリケーション システム タイプ	複数のアプリケーション システム タイプを質問票テンプレートに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager には転送されません。
質問票テンプレート	影響する	組織ユニット	複数の組織ユニットを質問票テンプレートに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager には転送されません。
質問票テンプレート	影響する	リスク	複数のリスクを質問票テンプレートに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager には転送されません。
質問票テンプレート	影響する	統制	複数の統制を質問票テンプレートに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager には転送されません。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
質問票テンプレート	影響する	検査の定義	複数の検査の定義を質問票テンプレートに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager には転送されません。
質問票テンプレート	開始される	調査タスク	複数の調査タスクを質問票テンプレートに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager で使用されます。
質問票テンプレート	割り当てられている	役割	複数の調査担当者グループを質問票テンプレートに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager で使用されます。

12.2.2 調査タスク

[調査タスク] タイプのオブジェクトは、[開始される] 接続線を使用して [質問票テンプレート] タイプのオブジェクトに接続できます。[ARCM の同期] 属性が設定されている質問票テンプレートでモデル化された [調査タスク] タイプのオブジェクトは、調査タスクでモデル化されているすべてのオブジェクトを含む ARIS Risk & Compliance Manager と同期されます。

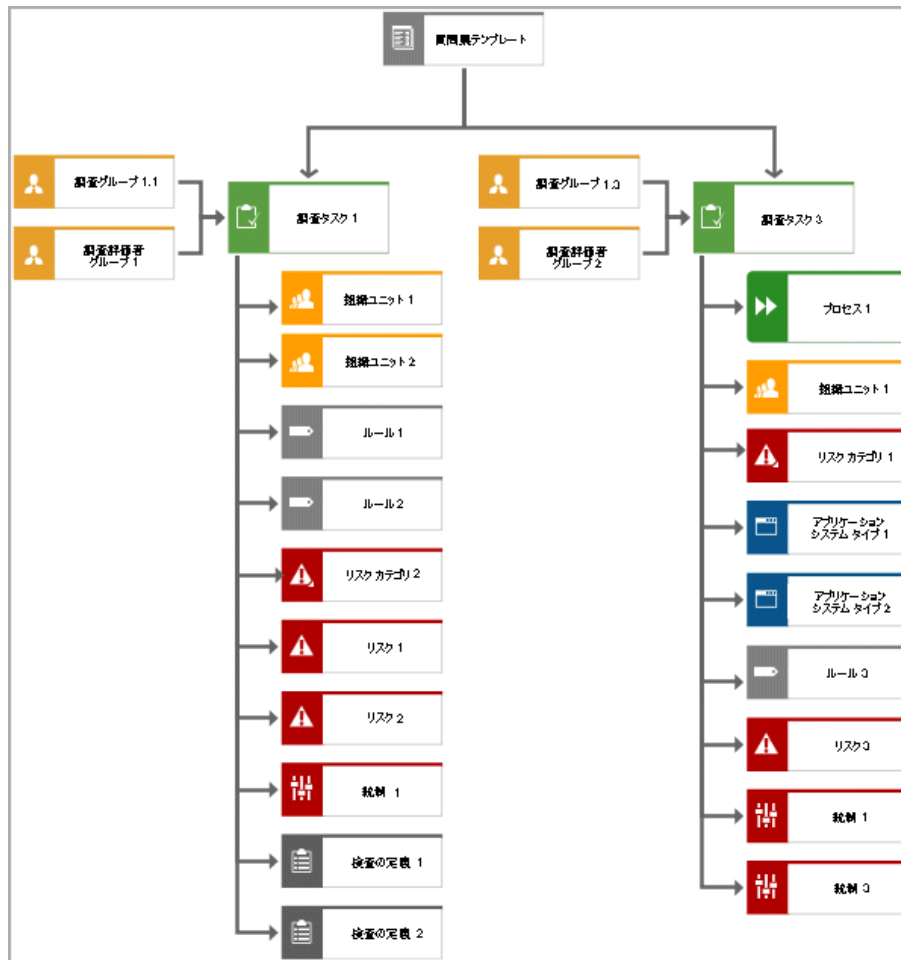







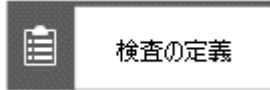


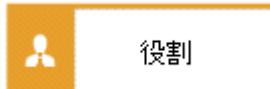
図 28: 質問票テンプレート割り当てモデルのサンプル

[影響する] 接続線を使用して、次のオブジェクトを [質問票テンプレート割り当て] モデルで [調査タスク] タイプのオブジェクトに割り当てることができます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
リスク カテゴリ	リスク カテゴリ	OT_RISK_CATEGORY	 リスク カテゴリ	リスク カテゴリ
アプリケーション システム タイプ	アプリケーション システム タイプ	OT_APPL_SYS_TYPE	 アプリケーション システム タイプ	アプリケーション システム タイプ
ファンクション	ファンクション/統制	OT_FUNC	 ファンクション  統制	プロセス/統制
組織ユニット	組織ユニット	OT_ORG_UNIT	 組織ユニット	組織
用語	用語	OT_TECH_TRM	 用語	規定
リスク	リスク	OT_RISK	 リスク	リスク

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
検査の定義	検査の定義	OT_TEST_DEFINITION		検査の定義

調査を担当する調査回答者は、[割り当てる] 接続線を使用して調査タスクに割り当てられます。これはまた、担当の調査評価者グループでも同様です。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
役割	役割	OT_PERS_TYPE		調査回答者グループ、調査評価者グループ、調査担当者グループ

12.2.3 質問票テンプレート割り当てモデル内の調査タスクのオブジェクト関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
調査タスク	関係する	リスク カテゴリ	複数のリスク カテゴリを調査タスクに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager で使用されます。
調査タスク	関係する	用語/規定	複数の規定を調査タスクに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager で使用されます。
調査タスク	関係する	ファンクション/プロセス	複数のプロセスを調査タスクに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager で使用されます。
調査タスク	関係する	アプリケーション システム タイプ	複数のアプリケーション システム タイプを調査タスクに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager で使用されます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
調査タスク	関係する	組織ユニット	複数の組織ユニットを調査タスクに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager で使用されます。
調査タスク	関係する	リスク	複数のリスクを調査タスクに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager で使用されます。
調査タスク	関係する	統制	複数の統制を調査タスクに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager で使用されます。
調査タスク	関係する	検査の定義	複数の検査の定義を調査タスクに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager で使用されます。
調査タスク	割り当てられている	役割	複数の調査回答者グループと 1 つの評価者グループ、1 つの調査担当者グループを調査タスクに割り当てることができます。この関係は ARIS Risk & Compliance Manager で使用されます。

調査タスクは、[調査タスク] オブジェクト (OT_SURVEY_TASK) を使用して ARIS Architect でモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager の [調査タスク] オブジェクトに対する ARIS の [調査タスク] オブジェクトには、次の割り当てを適用できます。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	調査タスクの名前です。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
頻度	AT_SURVEYTASK_FREQUENCY	frequency	○	調査が生成される頻度を定義します。使用できるオプション： <ul style="list-style-type: none"> ▪ 単発 ▪ 日次 ▪ 週次 ▪ 月次 ▪ 四半期 ▪ 半期 ▪ 年次 ▪ 隔年 ▪ なし (イベント駆動のみ)
開始日	AT_SURVEYTASK_START_DATE	startDate	(○)	調査の生成を開始する日付を出力します。[頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
終了日	AT_SURVEYTASK_END_DATE	endDate		調査の生成を終了する日付を出力します。
オフセット (単位: 日)	AT_SURVEYTASK_OFFSET	統制期間のオフセット		調査タスクが統制期間の何日前にあるかを出力します。
実行期限 (単位: 日)	AT_SURVEYTASK_DURATION	期間	(○)	調査回答者が調査を完了するために使用できる日数を出力します。期間は、調査を完了しなければならない完了日を定義します。[頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
統制期間の長さ	AT_SURVEYTASK_CTRL_PERIOD	control_period		<p>統制の時間単位を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 日 ▪ 週 ▪ 月 ▪ 四半期 ▪ 半期 ▪ 年 ▪ 2 年
イベント駆動の調査許可	AT_EVENT_DRIVEN_SURVEYS_ALLOWED	event_driven_allowed		<p>アドホック調査が許可されるかどうかを示す。</p>
		owner_group	○	<p>担当の調査回答者グループです。この役割は複数グループに割り当てることができます。調査タスクとロールの間の接続線を使用して決定されます。調査タスクへの対応する関係は、ARIS Risk & Compliance Manager に保存されます。</p>
		reviewer_group	○	<p>担当の調査評価者グループです。役割は、1 つのグループにのみ割り当てることができます。調査タスクとロールの間の接続線を使用して決定されます。</p>
		manager_group		<p>担当の調査担当者グループです。役割は、1 つのグループにのみ割り当てることができます。調査タスクとロールの間の接続線を使用して決定されます。</p>

ARIS 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
		relatedAppSystems		割り当てられたアプリケーション システム タイプの一覧です。調査タスクとアプリケーション システム タイプの間の接続線を使用して決定されます。
		relatedOrgunits		割り当てられた組織ユニットの一覧です。調査タスクと組織ユニットの間の接続線を使用して決定されます。
		relatedProcesses		割り当てられたファンクション/プロセスの一覧です。調査タスクとファンクションの間の接続線を使用して決定されます。
		relatedRegulations		割り当てられた規定の一覧です。調査タスクと規定の間の接続線を使用して決定されます。
		relatedCategories		割り当てられたリスク カテゴリの一覧です。調査タスクとリスク カテゴリの間の接続線を使用して決定されます。
		risks		割り当てられたリスクの一覧です。調査タスクとリスクの間の接続線を使用して決定されます。
		controls		割り当てられた統制の一覧です。調査タスクと統制の間の接続線を使用して決定されます。
		test_definitions		割り当てられた検査定義の一覧です。調査タスクと検査定義の間の接続線を使用して決定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

13 法的情報

13.1 文書範囲

記載情報は、公開時点における設定および機能についての説明です。文書とソフトウェアは生産サイクルが異なるため、設定および機能の説明は実際の設定および機能と異なる場合があります。相違に関する情報は製品に付属しているリリース ノートに記載されています。リリース ノートをお読みになり、その情報を考慮に入れた上で、製品をインストール、設定およびご使用ください。

Software AG のサービスを利用せずにシステムの技術的機能と業務機能をインストールする場合は、インストールするシステム、その目的、対象システム、さまざまな依存性などに関して広範な知識が必要です。プラットフォームの数が多く、ハードウェアとソフトウェアの設定が相互に依存するので、特定のインストール シナリオのみしか記述できません。すべての設定と依存性を記述することはできません。

各種の技術を組み合わせる場合は、製造元の指示（特にインターネット ページに公開されたリリースに関するお知らせ）に従ってください。承認されているサードパーティ システムが正しく機能すること、および正しくインストールされることの保証はいたしかねます。また、サードパーティ システムはサポートしていません。必ず、該当の製造元のインストール マニュアルに記載されている手順に従ってください。問題がある場合は、製造元にお問い合わせください。

サードパーティ システムのインストールにサポートが必要な場合は、最寄りの Software AG の販売部門にお問い合わせください。このような製造元またはお客様固有の変更は、Software AG の標準ソフトウェア保守契約の対象ではありません。このような変更は、それを特別に要請し、同意した場合にのみ実行できます。

説明の中で特定の ARIS 製品を参照している場合、製品には名前が付けられています。それ以外の場合、ARIS 製品の名前は次のように使用されます。

名前	対象
ARIS 製品	Software AG 標準ソフトウェアの使用許諾契約が適用されるすべての製品を指します。
ARIS クライアント	ARIS Server を介して共有データベースにアクセスする ARIS Architect または ARIS Designer などのすべてのプログラムを指します。
ARIS ダウンロード クライアント	ブラウザを使用してアクセスできる ARIS クライアントを指します。

13.2 データ保護

Software AG の製品は、個人データの処理に関して EU 一般データ保護規則（General Data Protection Regulation; GDPR）に準拠した機能を提供しています。

該当する場合は、対応する管理文書に適切な手順が記録されます。

13.3 免責事項

ARIS 製品は個人による使用を目的として開発されています。内容の生成や、インターフェイスを使用したオブジェクト/成果物のインポートなどの自動化プロセスによって、データ量が膨大になり、その実行が処理能力や物理的な限界を超える可能性

があります。使用可能なメモリが操作の実行やデータの格納に対して不十分な場合には、物理的な限界を超える可能性があります。

ARIS Risk & Compliance Manager を効率的に操作するには、信頼性があり、高速なネットワーク接続が必要です。応答時間が不十分なネットワークでは、システムのパフォーマンスが下がり、タイムアウトを引き起こす可能性があります。

ARIS 製品が仮想環境で使用されている場合は、オーバーブッキングのリスクを回避するために十分なリソースが利用できることが必要になります。

このシステムは、400 人のユーザーが同時にログオンする内部統制システムのシナリオでテストされました。これには 2 百万個のオブジェクトが含まれます。適切なパフォーマンスを確保するために、500 人を超えるユーザー以上が同時にログオンしない状況で運用することを推奨します。顧客固有の調整、特に一覧とフィルターの調整はパフォーマンスを悪化させます。